

学校改善支援プラン

令和6年度全国学力・学習状況調査
調査結果分析を踏まえた7つの提言

令和6年12 月
京都府教育委員会

目 次

I 京都府における調査結果の概要

II 京都府における国語の状況と改善のポイント

- 1 小学校国語の概要
- 2 中学校国語の概要
- 3 小学校国語の設問別調査結果
- 4 中学校国語の設問別調査結果
- 5 小学校国語科の授業改善のポイント
- 6 中学校国語科の授業改善のポイント

III 京都府における算数・数学の状況と改善のポイント

- 1 小学校算数の概要
- 2 中学校数学の概要
- 3 小学校算数の設問別調査結果
- 4 中学校数学の設問別調査結果
- 5 小学校算数科の授業改善のポイント
- 6 中学校数学科の授業改善のポイント

IV 児童生徒質問調査結果

- 1 児童生徒質問調査について
- 2 児童生徒質問の調査結果について
 - (1) 国語への関心等
 - (2) 算数（数学）への関心等
 - (3) 規範意識 (4) 自己有用感
 - (5) 生活習慣・学習習慣
 - (6) その他

V 学校質問調査結果

- 1 学校質問調査について
- 2 学校質問の調査結果について
 - (1) 国語科の指導方法
 - (2) 算数（数学）科の指導方法
 - (3) 授業改善 (4) ICT
 - (5) 生徒指導 (6) 学校運営
 - (7) 教職員の資質能力の向上
 - (8) 家庭や地域との連携等

VI 調査から見てくる課題と成果 質問調査の分析から

VII 提言

令和6年度全国学力・学習状況調査 調査結果を踏まえた学力向上7つの提言

I 京都府における調査結果の概要

I 京都府における調査結果の概要

1 実施概要

(1) 実施日 令和6年4月18日（木）

(2) 対象学年 小学校第6学年・中学校第3学年

(3) 実施教科等

ア 教科に関する調査

・小学校第6学年：国語、算数

・中学校第3学年：国語、数学

注：「主として『知識・技能』に関する問題」と「主として『活用』に関する問題」とを一体的に問う問題が出題されている。

イ 質問調査

・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する児童生徒に対する調査

・学校における指導方法に関する取組等の学校に対する調査

注：1人1台端末等を用いたオンライン方式により実施。

(4) 実施学校・受検児童生徒数〔公立学校（京都市を除く）〕

	区 分	実施学校数	児童生徒数
小学校	全 国	18,466校	947,579人
	京都府	196校	8,861人
中学校	全 国	9,268校	875,952人
	京都府	99校	8,692人

※令和6年4月18日（木）に調査を実施した学校・児童生徒数

2 教科に関する調査の実施結果（京都市を除く）

	国語		算数・数学	
	京都府	全国	京都府	全国
小学校	68	67.7	65	63.4
中学校	58	58.1	52	52.5

3 その他

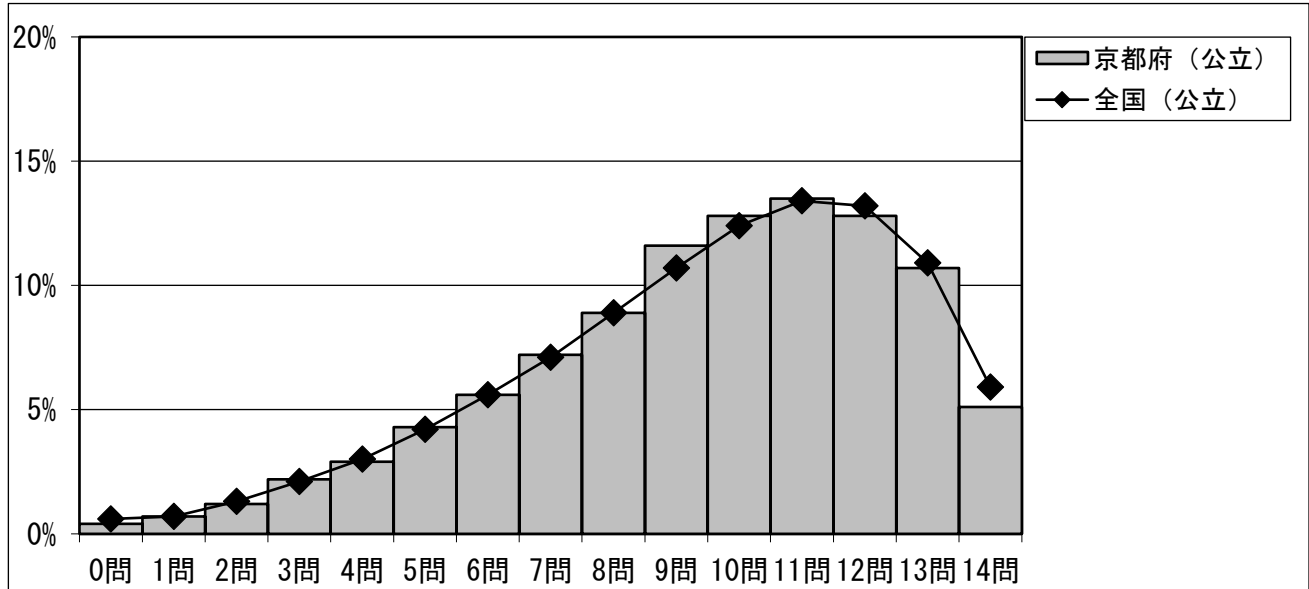
本資料に掲載したデータは、調査実施当日に受検した京都府（京都市を除く）の児童生徒の結果であり、分析も本データを基に行っている。

Ⅱ 京都府における国語の状況と改善のポイント

*すべて京都市を除く京都府のデータです

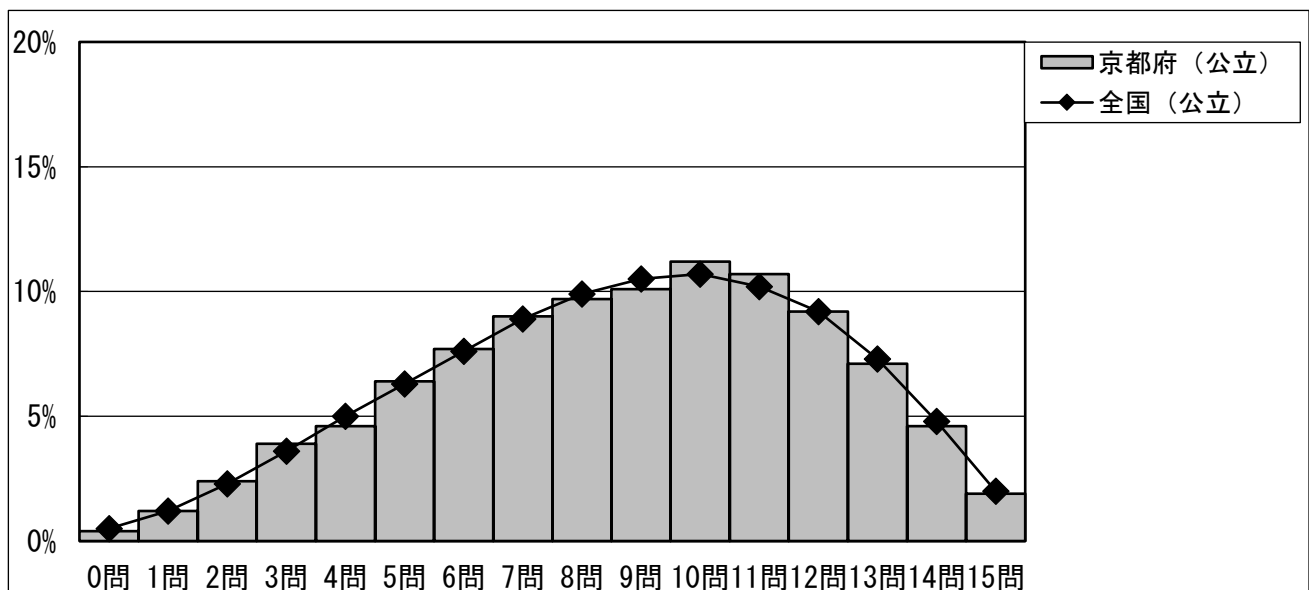
1 小学校国語の概要

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
京都府	8,859	9.5 / 14	68	10.0	3.0
全 国	947,364	9.5 / 14	67.7	10.0	3.1



2 中学校国語の概要

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
京都府	8,690	8.7 / 15	58	9.0	3.3
全 国	875,574	8.7 / 15	58.1	9.0	3.4



3 設問別調査結果 [国語]

小学校 [国語]

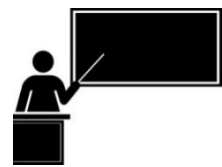
京都市を除く京都府一児童（公立）

集計結果			
	児童数	学校数	平均正答率
京都府（公立）	8,859	196	68
全国（公立）	947,364	18,466	67.7

分類・区分別集計結果				
分類		区分	平均正答率(%)	
			京都府	全国
学習指導要領の領域等	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	64.8	64.4
		(2) 情報の扱い方に関する事項	87.1	86.9
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	74.8	74.6
	思考力, 判断力, 表現力等	A 話すこと・聞くこと	59.3	59.8
		B 書くこと	66.9	68.4
		C 読むこと	70.7	70.7
評価の観点		知識・技能	70.2	69.8
		思考・判断・表現	65.5	66.0
		主体的に学習に取り組む態度		
問題形式		選択式	69.3	69.9
		短答式	61.3	59.7
		記述式	64.6	64.6

◇正答率が全国平均を上回っている、もしくは同率の設問が7問ある。そのうち一問を除いては正答率6割を超えている。無解答率も、全ての問題において全国平均を下回っている。

◆正答率が全国平均を下回った設問が7問あり、そのうち6割を下回った設問が2問ある。既習の漢字を文や文章の中で使おうとする習慣を身に付けるようにすることが必要である。



設問番号	問題の概要	領域等	正 答 率		無解答率	
			府(※)	全国	府	全国
1ー	学校の取り組みを紹介する内容を【和田さんのメモ】にどのように整理したのかについて説明したものとして、適切なものを選択する	話すこと・聞くこと	63.6	62.5	0.6	0.7
1二(1)	オンラインで交流する場面において、和田さんが話し方を変えた理由として適切なものを選択する	言葉の特徴や使い方に関する事項	75.2	75.9	0.5	0.6
1二(2)	オンラインで交流する場面における和田さんの話し方の工夫として適切なものを選択する	話すこと・聞くこと	51.8	52.9	0.6	0.7
1三	オンラインで交流する場面において、【和田さんのメモ】がどのように役に立ったのかを説明したものとして、適切なものを選択する	話すこと・聞くこと	62.5	63.8	0.9	0.9
2ー(1)	高山さんが文章に書くことを決めるために、どのように考えたのかについて説明したものとして、適切なものを選択する	書くこと	80.3	80.3	0.7	0.9
2ー(2)	【高山さんのメモ】の書き表し方を説明したものとして、適切なものを選択する	情報の扱い方に関する事項	87.1	86.9	0.7	0.9
2二	【高山さんの文章】の空欄に入る内容を、【高山さんの取材メモ】を基にして書く	書くこと	53.5	56.6	4.4	4.9
2三ア	【高山さんの文章】の下線部アを、漢字を使って書き直す（きょうぎ）	言葉の特徴や使い方に関する事項	43.8	43.4	10.1	13.2
2三イ	【高山さんの文章】の下線部イを、漢字を使って書き直す（なげる）	言葉の特徴や使い方に関する事項	78.8	76.0	5.7	8.0
3ー	【物語】の一文の中の「かがやいています」の主語として適切なものを選択する	言葉の特徴や使い方に関する事項	61.6	62.3	1.5	2.0
3二(1)	「オニグモじいさん」が「ハエの女の子」にどのように話すか迷っていると考えられるところとして、適切なものを選択する	読むこと	65.5	66.9	1.9	2.6
3二(2)	【話し合いの様子】で、原さんが【物語】の何に着目したのかについて説明したものとして、適切なものを選択する	読むこと	71.0	72.5	1.9	2.9
3三	【物語】を読んで、心に残ったところとその理由をまとめて書く	読むこと	75.7	72.6	10.0	12.6
3四	【原さんの読書の記録】の空欄に入る内容として適切なものを選択する	我が国の言語文化に関する事項	74.8	74.6	5.8	7.6

※府(京都市を除く)の正答率が全国の正答率より低い問題についてはセルの色を で、正答率が60%未満の問題についてはセルの色を で、表示しています。

4 設問別調査結果 〔国語〕

京都市を除く京都府一生徒（公立）

中学校〔国語〕

集計結果

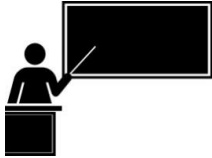
	生徒数	学校数	平均正答率
京都府（公立）	8,690	99	58
全国（公立）	875,574	9,268	58.1

分類・区分別集計結果

分類		区分	平均正答率(%)	
			京都府	全国
学習指導要領の領域等	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	59.9	59.2
		(2) 情報の扱い方に関する事項	59.2	59.6
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	75.2	75.6
	思考力, 判断力, 表現力等	A 話すこと・聞くこと	58.5	58.8
		B 書くこと	66.0	65.3
		C 読むこと	47.6	47.9
評価の観点		知識・技能	62.2	62.0
		思考・判断・表現	55.3	55.4
		主体的に学習に取り組む態度		
問題形式		選択式	60.9	61.0
		短答式	61.3	61.8
		記述式	46.5	45.5

◇正答率が全国平均を上回っている設問が9問ある。そのうち4問は正答率6割を超えている。

◆読むことに課題がある。書き手の伝えたい内容をより正確に読み取ること、図表などを示すことで文章にどのような効果が生まれているのかを考えるように指導することが大切である。



設問別集計結果

設問番号	問題の概要	領域等	正 答 率		無解答率	
			府(※)	全国	府	全国
1ー	話合いの中の発言について説明したものとして適切なものを選択する	話すこと・聞くこと	62.9	63.2	0.6	0.4
1二	話合いの中で発言する際に指し示している資料の部分として適切な部分を○で囲む	話すこと・聞くこと	67.4	68.5	3.4	3.5
1三	話合いの中の発言について説明したものとして適切なものを選択する	情報の扱い方に関する事項 書くこと	42.6	44.0	0.6	0.5
1四	話合いの話題や発言を踏まえ、「これからどのように本を選びたいか」について自分の考えを書く	話すこと・聞くこと	45.3	44.7	8.6	9.9
2ー	本文中の図の役割を説明したものとして適切なものを選択する	読むこと	34.7	36.3	0.8	0.5
2二	本文中の情報と情報との関係を説明したものとして適切なものを選択する	情報の扱い方に関する事項 書くこと	75.7	75.2	0.8	0.6
2三	本文中に示されている二つの例の役割をまとめた文の空欄に入る言葉として適切なものをそれぞれ選択する	読むこと	64.7	64.5	0.7	0.6
2四	本文に書かれていることを理解するために、着目する内容を決めて要約する	読むこと	43.7	42.6	6.5	8.4
3ー	物語を書くために集めた材料を取捨選択した意図を説明したものとして適切なものを選択する	書くこと	81.7	81.4	0.8	0.7
3二	物語の下書きについて、文の中の語句の位置を直した意図を説明したものとして適切なものを選択する	言葉の特徴や使い方に関する事項	54.7	53.8	1.0	1.0
3三	漢字を書く（みちたりた）	言葉の特徴や使い方に関する事項	69.5	68.8	9.4	10.2
3四	表現を工夫して物語の最後の場面を書き、工夫した表現の効果を説明する	書くこと	50.4	49.3	12.4	15.0
4ー	短歌に用いられている表現の技法を説明したものとして適切なものを選択する	言葉の特徴や使い方に関する事項	55.6	54.9	2.1	1.8
4二	短歌に詠まれている情景の時間帯の違いを捉え、時間の流れに沿って短歌の順番を並べ替える	読むこと	47.2	48.3	3.6	3.4
4三	行書の特徴を踏まえた書き方について説明したものとして適切なものを選択する	我が国の言語文化に関する事項	75.2	75.6	2.5	2.3

※府(京都市を除く)の正答率が全国の正答率より低い問題についてはセルの色を で、正答率が60%未満の問題についてはセルの色を で、表示しています

5 小学校国語科の授業改善のポイント

小学校 言葉の特徴や使い方に関する事項
情報の扱い方に関する事項
我が国の言語文化に関する事項

問題〔1二(1)〕
〔2一(2)・三ア・三イ〕
〔3一・四〕

全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎、○)と課題(▲)

○話し言葉と書き言葉との違いに気付くことができる

〔1二(1)〕(府の正答率 75.2%、全国の正答率 75.9%)

◎情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる

〔2一(2)〕(府の正答率 87.1%、全国の正答率 86.9%)

▲学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる(きょうぎ)

〔2三ア〕(府の正答率 43.8%、全国の正答率 43.4%)

○学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる(なげる)

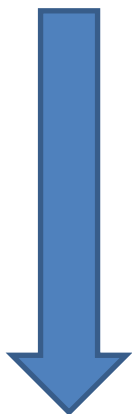
〔2三イ〕(府の正答率 78.8%、全国の正答率 76.0%)

○文の中における主語と述語との関係を捉えることができる

〔3一〕(府の正答率 61.6%、全国の正答率 62.3%)

○日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付くことができる

〔3四〕(府の正答率 74.8%、全国の正答率 74.6%)



解説

- ・〔2三ア〕について、一方の漢字のみがあっていたり、へんやつくりが同じ別の漢字を解答している児童が 46.1%見られる。漢字を書くことについては、文や文章の中で使おうとする習慣が身に付くように指導する必要がある。
- ・〔3一〕について、語句の係り方は捉えことができているが、主語と述語の関係を捉えることができず、主語は述語の直前にある言葉であると捉えた児童が 17.9%いる。主語の表し方には「～が」、「～は」、「～も」のように様々あり、主語と述語が離れて表される場合があることに留意して指導する必要がある。

<授業改善のポイント>

- ◎ 第5学年及び第6学年は漢字による熟語などの語句の使用が一層増加する時期である。文や文章の中で、既習の漢字を意識して使用するよう指導することが重要である。

全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎、○)と課題(▲)

○目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討することができる

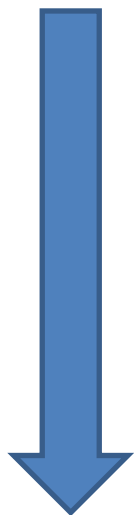
〔1ー〕(府の正答率 63.6%、全国の正答率 62.5%)

▲資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる

〔1二(2)〕(府の正答率 51.8%、全国の正答率 52.9%)

○目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができる

〔1三〕(府の正答率 62.5%、全国の正答率 63.8%)



解説

- ・〔1二(2)〕について、和田さんが相手が興味を持っていることに気付いたことは捉えられたが、用意していた実物を示しながら話したことを捉えるのではなく、「そうなんです。」と相手の話を受けとめている状況を相手の言葉を引用して話したと捉えた児童が 28.0%いる。自分の考えが伝わるように、資料を使いながら話すことや、聞き手の興味・関心などを予想して、どのような資料を用意すればよいかを考える場面を作ることも大切である。
- ・〔1三〕について、情報を整理していることは捉えられるが、複数の情報をまとめて伝えていることを捉えられていない児童が 17.5%いる。自分が伝えたいことと聞き手の求めていることに応じて情報を整理するよう指導することが大切である。

<授業改善のポイント> 国立教育政策研究所「授業アイデア例」(令和6年度)

URL : [24plang_idea_01.pdf](https://www.nier.go.jp/24chousakekkahoukoku/report/data/24plang_idea_01.pdf)

(https://www.nier.go.jp/24chousakekkahoukoku/report/data/24plang_idea_01.pdf#page=11)

- ◎ ①に登場する「和田さん」の思考の流れに沿って、目的や意図に応じ、伝え合う内容を検討し、自分の考えが伝わるように表現を工夫するという課題に応じた3つの場面を取り上げた指導事例を紹介している。

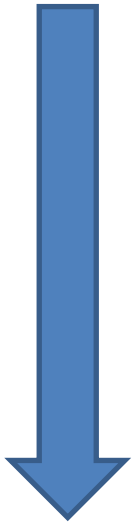
全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎、○)と課題(▲)

◎目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができる

〔2ー(1)〕(府の正答率 80.3%、全国の正答率 80.3%)

▲区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる

〔2二〕(府の正答率 53.5%、全国の正答率 56.6%)



解説

- ・〔2ー(1)〕については、目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができる。
- ・〔2二〕については、字数を除いた2つの条件のうち、条件②だけを満たしている児童が36.6%いる。書く目的や意図が明確でなく、「たてわり遊び」のよさの書く必要を認識していなかったり、認識していてもそこから自分の考えが持てず、事実を自分の考えのように書いたと考えられる。文章を書く目的や意図を明確にし、客観的な事実を取り上げ、取り上げた事実が自分の考えを裏付けるものになっているかを振り返り、事実と考えとの関係を明確にできるように指導することが大切である。

<授業改善のポイント> 国立教育政策研究所「授業アイデア例」(令和6年度)

URL : [24plang_idea_02.pdf](https://www.nier.go.jp/24chousakekkahoukoku/report/data/24plang_idea_02.pdf)

(https://www.nier.go.jp/24chousakekkahoukoku/report/data/24plang_idea_02.pdf#page=11)

- ◎ 目的や意図に応じて、事実と感想、意見と区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫するという課題について、**②**に登場する高山さんが情報を整理する場面と、個々の児童が記述する場面を取り上げ、伝えたいことを明確にし、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する指導事例を紹介している。

全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎)と課題(▲)

○登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができる

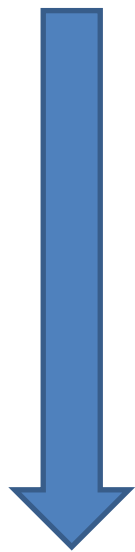
〔3二(1)〕(府の正答率 65.5%、全国の正答率 66.9%)

○人物像を具体的に想像することができる

〔3二(2)〕(府の正答率 71.0%、全国の正答率 72.5%)

○人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる

〔3三〕(府の正答率 75.7%、全国の正答率 72.6%)



解説

- ・〔3二(1)〕では、「2」と解答している児童 22.3%いる。暗示的な表現から心情を捉えることが難しかったと考えられる。低学年から系統的に指導し、描写を基に登場人物の相互関係や心情を捉えることができるようにすることが大切である。
- ・〔3二(2)〕では、「4」と解答している児童が 14.4%いる。オニグモじいさんの心情が、行動や会話によって暗示的に表現されていることから、「表現の効果」に着目していると考えたと考えられる。漠然としている人物像を明確にしたり、想像した人物像の根拠となる描写を明らかにしたりすることができるよう指導することが大切である。
- ・〔3三〕では、人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることはできている。

<授業改善のポイント> 国立教育政策研究所「授業アイデア例」(令和6年度)

URL : [24plang_idea_03.pdf](https://www.nier.go.jp/24chousakekkahoukoku/report/data/24plang_idea_03.pdf)

(https://www.nier.go.jp/24chousakekkahoukoku/report/data/24plang_idea_03.pdf#page=14)

- ◎ 共通教材を読んで、心に残ったところなどを「読書の記録」に書くことを通して、どのように読めば、物語のよさを見つけられるかを考える指導事例を紹介している。

6 中学校国語科の授業改善のポイント

中学校 言葉の特徴や使い方に関する事項
情報の扱い方に関する事項
我が国の言語文化に関する事項

問題〔1三〕〔2二〕
〔3二・三〕〔4一・三〕

全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎、○)と課題(▲)

▲意見と根拠など情報と情報との関係について理解している

〔1三〕(府の正答率 42.6%、全国の正答率 44.0%)

○具体と抽象など情報と情報との関係について理解している

〔2二〕(府の正答率 75.7%、全国の正答率 75.2%)

▲文の成分の順序や照応について理解している

〔3二〕(府の正答率 54.7%、全国の正答率 53.8%)

○文脈に即して漢字を正しく書くことができる(みちたりた)

〔3三〕(府の正答率 69.5%、全国の正答率 68.8%)

▲表現の技法について理解している

〔4一〕(府の正答率 55.6%、全国の正答率 54.9%)

○行書の特徴を理解している

〔4三〕(府の正答率 75.2%、全国の正答率 75.6%)

解説

- ・〔1三〕について、正答率 42.6%と低い。意見と根拠など情報と情報との関係についての理解に課題がある。何が意見で、何が根拠となる事実なのか。そして、何が意見につながる理由なのかを整理しながら指導することが大切である。
- ・〔3二〕について、正答率が 54.7%と低い。文の成分の順序や照応についての理解に課題がある。語順の違いによって表現がどのように変わってくるかを考える際には、文の成分の順序や照応などの文の構成について着目するように指導することが大切である。
- ・〔4一〕について、正答率が 55.6%と低い。表現の技法についての理解に課題がある。文学的な文章を味わう際に、描写の仕方や表現の工夫などに着目できるように引き続き指導することが大切である。

<授業改善のポイント>

- ◎ 「知識及び技能」の各資質能力は、三領域の指導に絡めて発揮しながら獲得していくものである。言語活動と併せて、言葉のもつ働きを生徒自身も意識できるように指導することが重要である。

全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎、○)と課題(▲)

○必要に応じて質問しながら話の内容を捉えることができる

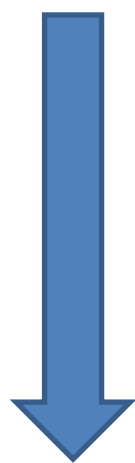
〔1ー〕(府の正答率 62.9%、全国の正答率 63.2%)

○資料を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように話すことができる

〔1二〕(府の正答率 67.4%、全国の正答率 68.5%)

▲話合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができる

〔1四〕(府の正答率 45.3%、全国の正答率 44.7%)



解説

・「話すこと・聞くこと」の領域の平均正答率は全国平均とほぼ同等である。

・〔1四〕では、無答率が 8.6%と高い。このような問題に答えられるようにするためには、生徒に同様の学習を経験させておくことが必要である。何についてどのような目的で話し合っているかといった、目指している到達点の意識、互いの発言を結び付けられるようにすることが重要である。また、話合いの展開に応じて、互いの発言を結び付け、話し合った内容を踏まえて自分の考えをまとめられるように指導することが大切である。自分の考えをまとめることができるようにすることも大切である。

<授業改善のポイント> 国立教育政策研究所「授業アイデア例」(令和6年度)

URL : [24mlang_idea_01.pdf](https://www.nier.go.jp/24chousakekkahoukoku/report/data/24mlang_idea_01.pdf)

(https://www.nier.go.jp/24chousakekkahoukoku/report/data/24mlang_idea_01.pdf#page=11)

- ◎ 「エコーチェンバー現象の資料」を用いて、話合いの話題や展開を捉え、発言を結び付けて自分の考えをまとめる事例が紹介されている。自分の考えの基になった発言や話合いの内容について整理して述べるように指導するとともに、自分の考えが話合いの話題や内容とどのように結び付いているのか、そのつながりが分かるようにまとめることができたかを振り返る指導が重要である。

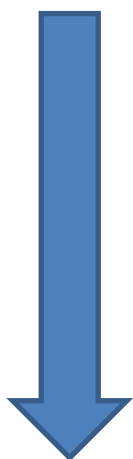
全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎、○)と課題(▲)

◎目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる

〔3一〕（府の正答率 81.7%、全国の正答率 81.4%）

▲表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる

〔3四〕（府の正答率 50.4%、全国の正答率 49.3%）



解説

・「書くこと」の領域の平均正答率は全国平均を上回っている。

・〔3四〕では、無答率が 12.4%と高く、正答率が 50.4%と課題がある。このような問題に答えられるようにするためには、生徒に同様の学習を経験させておくことが必要である。物語を創作する場面において、表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができるかどうか問われている。用いた語句や表現がねらいに照らして、言葉の機能としてどのように働いているか、確かめながら学習活動を進めることができるように指導することが大切である。

<授業改善のポイント> 国立教育政策研究所「授業アイデア例」(令和6年度)

URL : [24mlang_idea_03.pdf](https://www.nier.go.jp/24chousakekkahoukoku/report/data/24mlang_idea_03.pdf)

(https://www.nier.go.jp/24chousakekkahoukoku/report/data/24mlang_idea_01.pdf#page=11)

◎ 表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫する事例が紹介されている。学習の際には、個人によって進度が異なることが想定されるため、文章を書く際に、1人1台端末の音声入力機能を活用したり、書いた文章を自他で読み合って参考にできるような機会を随時設けたりするなど、個々の生徒が自分で学習の進め方を調整できるようにする指導が重要である。

全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎○)と課題(▲)

▲文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することができる

〔2一〕(府の正答率 34.7%、全国の正答率 36.3%)

○文章の全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係を捉えることができる

〔2三〕(府の正答率 64.7%、全国の正答率 64.5%)

▲目的に応じて必要な情報に着目して要約することができる

〔2四〕(府の正答率 43.7%、全国の正答率 42.6%)

▲短歌の内容について、描写を基に捉えることができる

〔4二〕(府の正答率 47.2%、全国の正答率 48.3%)

解説

- ・〔2一〕について、正答率が 34.7%と低い。文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することに課題がみられる。図表や写真などを含む説明的な文章を読む際には、示されている図表などが、文章のどの部分と関連しているのかを確認するなどして、書き手の伝えたい内容をより正確に読み取ること、図表などを示すことで文章にどのような効果が生まれているのかを考えるように指導することが大切である。
- ・〔2四〕について、正答率が 43.7%と低い。目的に応じて必要な情報に着目して要約することに課題がみられる。要約する際には、目的を明確にすることが重要であり、その上で、要約したものが目的に沿っているかどうかを考え、必要な情報を性格に捉えて要約するように指導することが大切である。
- ・〔4二〕について、正答率が 47.2%と低い。短歌の内容について、描写を基に捉えることに課題がみられる。複数の作品を読み比べる学習の際の際には、共通点を見出し、作品を関連付けたり、共通するものの中で違いを考えたりするように指導することが大切である。

<授業改善のポイント> 国立教育政策研究所「授業アイデア例」(令和6年度)

URL : [24mlang_idea_02.pdf](https://www.nier.go.jp/24chousakekkahoukoku/report/data/24mlang_idea_02.pdf)

(https://www.nier.go.jp/24chousakekkahoukoku/report/data/24mlang_idea_02.pdf#page=12)

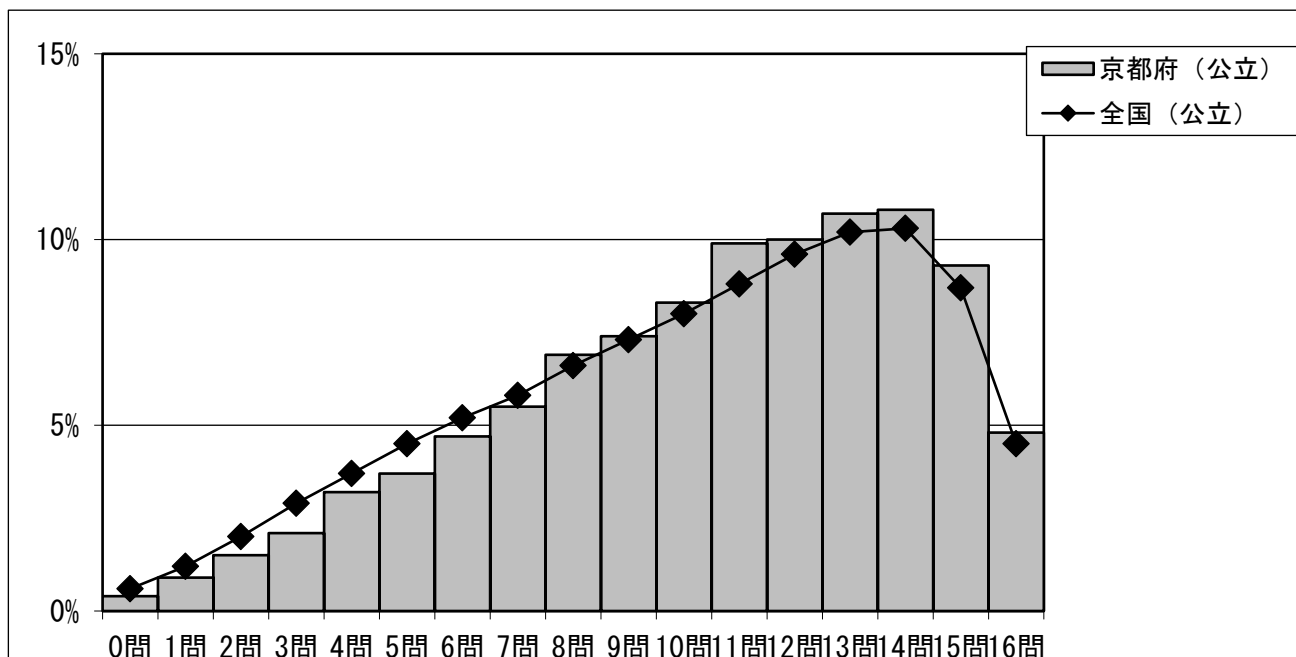
- ◎ 伝える対象や目的を意識し、必要な情報に着目して要約する事例が紹介されている。この事例を活用する際には、特別活動や総合的な学習の時間など、他教科等の学習で生徒が要約した文章を取り上げることも考えられる。

Ⅲ 京都府における算数・数学の状況と 改善のポイント

*すべて京都市を除く京都府のデータです

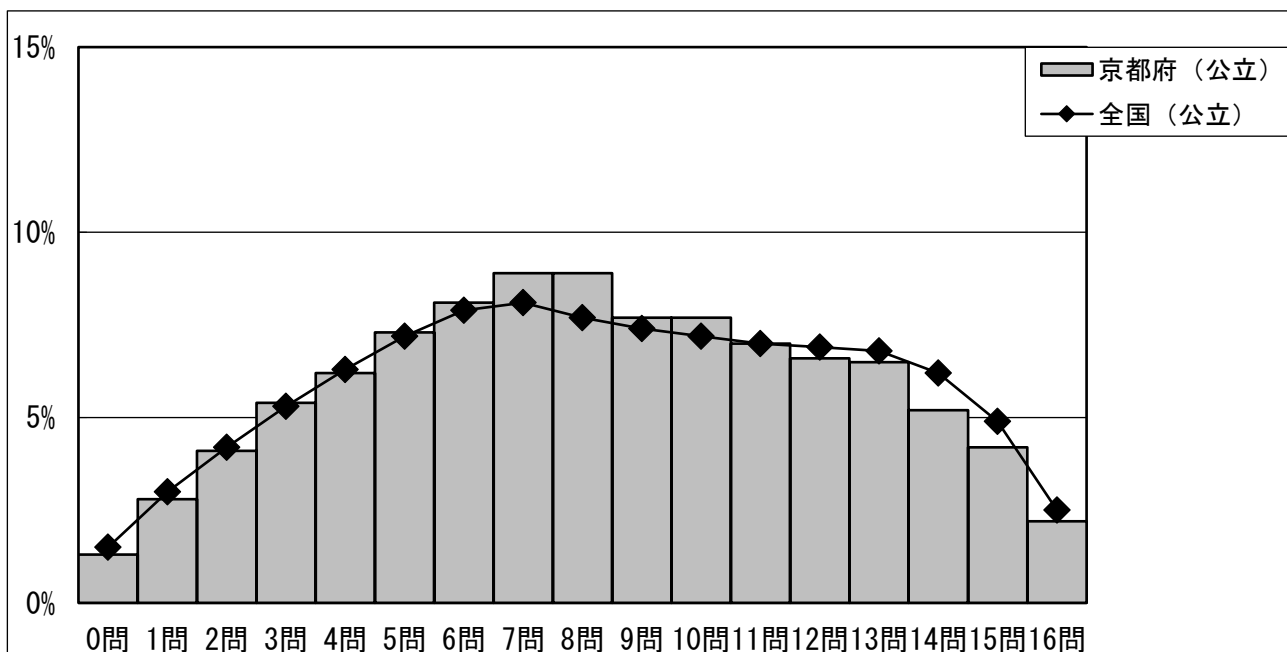
1 小学校算数の概要

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
京都府	8,861	10.5 / 16	65	11.0	3.7
全 国	947,579	10.1 / 16	63.4	11.0	3.9



2 中学校数学の概要

	生徒数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
京都府	8,692	8.3/16	52	8.0	4.0
全 国	875,952	8.4/16	52.5	8.0	4.1



3 設問別調査結果 [算数]

京都市を除く京都府一児童（公立）

小学校 [算数]

集計結果

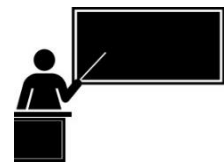
	児童数	学校数	平均正答率
京都府（公立）	8,861	196	65
全国（公立）	947,579	18,466	63.4

分類・区分別集計結果

分類	区分	平均正答率(%)	
		京都府	全国
学習指導要領の領域	A 数と計算	68.8	66.0
	B 図形	67.8	66.3
	C 測定		
	C 変化と関係	53.4	51.7
	D データの活用	63.4	61.8
評価の観点	知識・技能	75.7	72.8
	思考・判断・表現	52.3	51.4
	主体的に学習に取り組む態度		
問題形式	選択式	77.5	75.3
	短答式	64.4	62.0
	記述式	52.3	51.0

◇ 正答率が全国平均を上回っている設問が13問ある。無解答率も、全ての問題において全国平均よりも低い。

◆ 正答率が6割を下回る設問が6問ある。特にデータの活用の領域に課題が見られる。根拠を明確にして説明できるように指導することが必要である。



設問別集計結果

設問番号	問題の概要	領域等	正 答 率		無解答率	
			府(※)	全国	府	全国
1（1）	問題場面の数量の関係を捉え、持っている折り紙の枚数を求める式を選ぶ	数と計算	65.7	62.1	0.1	0.2
1（2）	はじめに持っていた折り紙の枚数を口枚としたときの、問題場面を表す式を選ぶ	数と計算	89.2	88.5	0.1	0.3
2（1）	$350 \times 2 = 700$ であることを基に、 350×16 の積の求め方と答えを書く	数と計算	55.8	56.9	2.7	3.4
2（2）	除数が1／10になったときの商の大きさについて、正しいものを選ぶ	数と計算	73.4	69.1	1.1	1.3
3（1）	作成途中の直方体の見取図について、辺として正しいものを選ぶ	図形	85.8	85.5	0.4	0.6
3（2）	円柱の展開図について、側面の長方形の横の長さが適切なものを選ぶ	図形	73.5	71.3	0.6	0.8
3（3）	直径22cmのボールがぴったり入る箱の体積を求める式を書く	図形	38.7	36.5	7.2	9.8
3（4）	五角柱の面の数を書き、そのわけを底面と側面に着目して書く	図形	73.2	72.0	1.1	1.8
4（1）	$540 \div 0.6$ を計算する	数と計算	78.8	70.1	1.5	3.1
4（2）	3分間で180m歩くことを基に、1800mを歩くのにかかる時間を書く	変化と関係	68.7	70.0	1.7	3.3
4（3）	家から学校までの道のりが等しく、かかった時間が異なる二人の速さについて、どちらが速いかを判断し、そのわけを書く	変化と関係	34.5	31.0	1.3	2.4
4（4）	家から図書館までの自転車の速さが分速何mかを書く	変化と関係	57.1	54.1	2.8	4.6
5（1）	円グラフから、2023年の桜の開花日について、4月の割合を読み取って書く	データの活用	84.8	80.8	1.0	1.8
5（2）	示されたデータから、1960年代のC市について、開花日が3月だった年と4月だった年がそれぞれ何回あったかを読み取り、表に入る数を書く	データの活用	73.2	73.3	2.9	3.9
5（3）	折れ線グラフから、開花日の月について、3月の回数と4月の回数の違いが最も大きい年代を読み取り、その年代について3月の回数と4月の回数の違いを書く	データの活用	45.6	44.0	9.4	12.6
5（4）	示された桜の開花予想日の求め方を基に、開花予想日を求める式を選び、開花予想日を書く	数と計算 データの活用	49.8	49.3	2.8	4.0

※府(京都市を除く)の正答率が全国の正答率より低い問題についてはセルの色を で、正答率が60%未満の問題についてはセルの色を で、表示しています。

4 設問別調査結果 [数学]

中学校 [数学]

京都市を除く京都府一生徒（公立）

集計結果

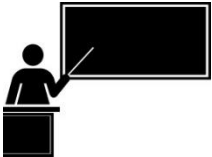
	生徒数	学校数	平均正答率
京都府（公立）	8,692	99	52
全国（公立）	875,952	9,265	52.5

分類・区分別集計結果

分類	区分	平均正答率(%)	
		京都府	全国
学習指導要領の領域	A 数と式	48.8	51.1
	B 図形	39.7	40.3
	C 関数	60.2	60.7
	D データの活用	55.9	55.5
評価の観点	知識・技能	62.6	63.1
	思考・判断・表現	27.8	29.3
	主体的に学習に取り組む態度		
問題形式	選択式	57.9	58.5
	短答式	66.4	67.0
	記述式	27.8	29.3

◇ 無解答率が全国平均よりも低い問題が10問ある。

◆ 説明する問題において、無解答率は全国と比べて低いが、説明の記述が不十分であるという課題がある。成り立つ理由を根拠を明らかにして説明ができるよう指導する必要がある。



設問別集計結果

設問番号	問題の概要	領域等	正 答 率		無解答率	
			府(※)	全国	府	全国
1	nを整数とすると、連続する二つの偶数を、それぞれnを用いた式で表す	数と式	31.0	34.8	14.7	14.3
2	等式 $6x + 2y = 1$ をyについて解く	数と式	50.6	52.5	8.9	9.7
3	正方形が回転移動したとき、回転前の正方形の頂点に対応する頂点を、回転後の正方形から選ぶ	図形	66.9	68.3	0.5	0.3
4	一次関数 $y = ax + b$ について、 $a = 1$ 、 $b = 1$ のときのグラフに対して、bの値を変えずに、aの値を大きくしたときのグラフを選ぶ	関数	63.4	65.3	0.8	0.7
5	2枚の10円硬貨を同時に投げるとき、2枚とも裏が出る確率を求める	データの活用	77.5	73.1	2.9	4.2
6（1）	正三角形の各頂点に○を、各辺に□をかいた図において、○に3、-5を入れるとき、その和である□に入る整数を求める	数と式	90.6	90.2	2.4	2.5
6（2）	正三角形の各頂点に○を、各辺に□をかいた図において、□に入る整数の和が○に入れた整数の和の2倍になることの説明を完成する	数と式	30.0	35.9	20.7	23.5
6（3）	正四面体の各頂点に○を、各辺に□をかいた図において、○に入れた整数の和と□に入る整数の和について予想できることを説明する	数と式	41.6	41.8	27.5	29.6
7（1）	障害物からの距離が10cmより小さいことを感知して止まる設定にした車型ロボットについて実験した結果を基に、10cmの位置から進んだ距離の最頻値を求める	データの活用	72.3	74.3	5.4	5.8
7（2）	車型ロボットについて「速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、10cmの位置から進んだ距離が長くなる傾向にある」と主張することができる理由を、5つの箱ひげ図を比較して説明する	データの活用	25.4	25.9	26.2	29.4
7（3）	車型ロボットについて、障害物からの距離の設定を変えて調べたデータの分布から、四分位範囲について読み取れることとして正しいものを選ぶ	データの活用	48.6	48.5	1.0	0.9
8（1）	ストーブの使用時間と灯油の残量の関係を表すグラフとy軸との交点Pのy座標の値が表すものを選ぶ	関数	83.9	83.4	0.9	0.8
8（2）	18Lの灯油を使いきるまでの「強」の場合と「弱」の場合のストーブの使用時間の違いがおよそ何時間になるかを求める方法を、式やグラフを用いて説明する	関数	16.8	17.1	13.8	16.4
8（3）	結衣さんがかいたグラフから、18Lの灯油を使い切るような「強」と「弱」のストーブの設定の組み合わせとその使用時間を書く	関数	76.6	76.9	3.6	3.8
9（1）	点Cを線分AB上にとり、線分ABについて同じ側に正三角形PACとQCBをつくるとき、 $AQ = PB$ であることを、三角形の合同を基にして証明する	図形	25.3	25.8	32.8	33.6
9（2）	点Cを線分AB上にとり、線分ABについて同じ側に正三角形PACとQCBをつくるとき、 $\angle AQC$ と $\angle BPC$ の大きさについていえることの説明として正しいものを選ぶ	図形	27.0	26.7	4.6	4.5

※府(京都市を除く)の正答率が全国の前答率より低い問題についてはセルの色を で、正答率が60%未満の問題についてはセルの色を で、表示しています。

5 小学校算数科の授業改善のポイント

小学校 A 数と計算

問題〔1(1)〕〔1(2)〕〔2(1)〕〔2(2)〕
〔4(1)〕〔5(4)〕

全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎、○)と課題(▲)

○問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことができるかどうかをみる

〔1(1)〕(府の正答率 65.7%、全国の正答率 62.1%)

◎数量の関係を、□を用いた式に表すことができるかどうかをみる

〔1(2)〕(府の正答率 89.2%、全国の正答率 88.5%)

▲計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる

〔2(1)〕(府の正答率 55.8%、全国の正答率 56.9%)

○除数が小数である場合の除法において、除数と商の大きさの関係について理解しているかどうかをみる

〔2(2)〕(府の正答率 73.4%、全国の正答率 69.1%)

○除数が小数である場合の除法の計算をすることができるかどうかをみる

〔4(1)〕(府の正答率 78.8%、全国の正答率 70.1%)

▲示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断できるかどうかをみる

〔5(4)〕(府の正答率 49.8%、全国の正答率 49.3%)

解説

- ・〔1(1)〕について、32.4%の児童が減法を選んでいる。問題を読み、「多い」のだから加法、「少ない」のだから減法、のように形式的に立式するのではなく、問題場面を図に表し、その図と問題文のそれぞれの数量の関係を比較し、捉えることができるようにすることが大切である。
- ・〔2(1)〕について、 350×16 の乗数が 350×2 の乗数の 8 倍であることを表しているが、 350×16 の積が 350×2 の積の 8 倍になっていることを用いて 350×16 の積を求める式や言葉は記述できていない児童が 14.6%いる。かけ算に関して成り立つ性質を活用して考えられることを、図や式を用いて関連付けて理解できるようにすることが必要である。

<授業改善のポイント> 国立教育政策研究所「授業アイデア例(令和6年度)」

URL : [24pmath_idea_01.pdf](https://www.nier.go.jp/24chousakekkahoukoku/report/data/24pmath_idea_01.pdf)

(https://www.nier.go.jp/24chousakekkahoukoku/report/data/24pmath_idea_01.pdf#page=5)

◎ たすのか、ひくのか、問題場面から演算を考える事例である。「多い」「少ない」といった言葉で判断するのではなく、問題場面を図に表し、図を基にして数量の関係を捉え、演算を決定する授業例である。数量の関係がつかみにくい場面では、問題文を短く区切り、文脈に沿って図をかき加えていくことが大切である。

全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎、○)と課題(▲)

◎直方体の見取図について理解し、かくことができるかどうかをみる

〔3(1)〕(府の正答率 85.8%、全国の正答率 85.5%)

○直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解しているかどうかをみる

〔3(2)〕(府の正答率 73.5%、全国の正答率 71.3%)

▲球の直径の長さと立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかどうかをみる

〔3(3)〕(府の正答率 38.7%、全国の正答率 36.5%)

○角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる

〔3(4)〕(府の正答率 73.2%、全国の正答率 72.0%)

解説

- ・〔3(3)〕について、3.14 を用いた式と解答してる児童が 16.3%いる。球の断面が円であることから円周率を用いて求める、もしくは球の直径の長さと円周率から体積を求めることができると誤って捉えていると考えられる。
- ・〔3(4)〕について、五角柱の面の数が7であると解答している児童は 90.4%いるが、わけを側面、底面のいずれか一方についてのみ答えている児童が 6.3%いる。角柱を構成する要素に注目し、底面や側面という用語を用いて角柱の性質について説明できるようにする必要がある。

<授業改善のポイント> 国立教育政策研究所「授業アイデア例(令和6年度)」

URL : [24pmath_idea_03.pdf](https://www.nier.go.jp/24chousakekkahoukoku/report/data/24pmath_idea_03.pdf)

(https://www.nier.go.jp/24chousakekkahoukoku/report/data/24pmath_idea_03.pdf#page=14)

◎ ボールが入った箱の体積を求める事例である。箱の形が直方体であるので、直方体の体積の公式とその意味について確認し、直方体の辺の長さと中に入っている球の直径の長さの関係を用いて直方体の体積を求めるのに必要な辺の長さを見だし、直方体の体積を求める授業例が紹介されている。図形を構成する要素や図形どうしの関係に着目し、筋道を立てて問題を解決できるようにすることが大切である。

全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎、○)と課題(▲)

○速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察できるかどうかをみる

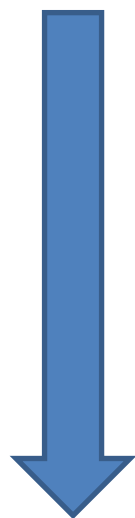
〔4(2)〕(府の正答率 68.7%、全国の正答率 70.0%)

▲道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる

〔4(3)〕(府の正答率 34.5%、全国の正答率 31.0%)

▲速さの意味について理解しているかどうかをみる

〔4(4)〕(府の正答率 57.1%、全国の正答率 54.1%)



解説

- ・〔4(3)〕について、かなたさんの方が速いと判断し、かなたさんとほのかさんが歩いた道のりが等しいことは記述できているが、かなたさんがかかった時間がほのかさんがかかった時間よりも短いことは記述できていない児童が31.3%いる。2人の歩く速さを比べる場合には、2人の歩いた道のりとかかった時間を確認し、この両方を用いて速さを比べることができることを説明できるようにする必要がある。
- ・〔4(4)〕について、2つの速さを合計して分速400mとしている児童が23.7%いる。1分間あたりに進む道のりが速さであることや、道のりとかかった時間から速さを計算して求められることを確認する必要がある。

<授業改善のポイント> 国立教育政策研究所「授業アイデア例(令和6年度)」

URL : [24pmath_idea_04.pdf](https://www.nier.go.jp/24chousakekkahoukoku/report/data/24pmath_idea_04.pdf)

(https://www.nier.go.jp/24chousakekkahoukoku/report/data/24pmath_idea_04.pdf#page=17)

- ◎ 道のりと時間の関係に着目し、家から図書館までの自転車の速さを考える事例である。問題場面を図に整理し、速さを考える際に求めた速さや求め方を式に表し、求めた速さの妥当性について、さらに図に書き加えて説明をする授業例である。速さの意味に基づいて、求めた速さなどを図に表して問題場面と比べて、妥当かどうか判断できるようにする必要がある。

全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎、○)と課題(▲)

◎円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ることができるかどうかをみる

〔5(1)〕(府の正答率 84.8%、全国の正答率 80.8%)

○簡単な二次元の表を読み取り、必要なデータを取り出して、落ちや重なりがないように分類整理することができるかどうかをみる

〔5(2)〕(府の正答率 73.2%、全国の正答率 73.3%)

▲折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる

〔5(3)〕(府の正答率 45.6%、全国の正答率 44.0%)

▲示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断できるかどうかをみる

〔5(4)〕(府の正答率 49.8%、全国の正答率 49.3%)

解説

- ・〔5(3)〕について、3月の回数と4月の回数の違いが最も大きい年代が2000年代であることは記述できているが、その違いについて記述ができていない児童が22.1%いる。また、無解答率が13.0%で、グラフからデータの特徴や傾向について捉えるとともに、グラフのどの部分やどの数値を基に判断したかを、他者に分かるように伝えることができるようにする必要がある。
- ・〔5(4)〕について、桜の開花予想日を答える問題に式の計算結果を記述した児童が9.6%、桜の開花予想日を19日と答え、それに合わせて表した式を選択したと思われる児童が6.5%いる。問題を正しく読み、表と式を対応させ、どのような式を用いて桜の開花予想日を判断したか説明できるようにすることが大切である。

<授業改善のポイント> 国立教育政策研究所「授業アイデア例(令和6年度)」

URL : [24pmath_idea_05.pdf](https://www.nier.go.jp/24chousakekkahoukoku/report/data/24pmath_idea_05.pdf)

(https://www.nier.go.jp/24chousakekkahoukoku/report/data/24pmath_idea_05.pdf#page=12)

◎ 桜の開花日について調べる事例である。桜の開花日についてのニュースという日常の場面から疑問から問題を設定し、その問題の解決に向けて、どのようなデータが必要か考え、目的に応じて表やグラフに表し、データの特徴や傾向を捉え、判断や考察できるようにすることが大切である。

6 中学校数学科の授業改善のポイント

中学校 数と式

問題〔1〕〔2〕〔6(1)〕〔6(2)〕〔6(3)〕

全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎、○)と課題(▲)

▲連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表すことができるかどうかをみる

〔1〕(府の正答率 31.0%、全国の正答率 34.8%)

▲等式を目的に応じて変形することができるかどうかをみる

〔2〕(府の正答率 50.6%、全国の正答率 52.5%)

◎問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算ができるかどうかをみる

〔6(1)〕(府の正答率 90.6%、全国の正答率 90.2%)

▲目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる

〔6(2)〕(府の正答率 30.0%、全国の正答率 35.9%)

▲統合的・発展的に考え、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる

〔6(3)〕(府の正答率 41.6%、全国の正答率 41.8%)

解説

- ・〔1〕について、 $2n$ と $4n$ のように n を用いて2つの偶数を解答している生徒が12.1%、 n と $n+2$ のように差が2である2つの整数を解答している生徒が11.2%いる。偶数を文字を用いて表すことについての理解が不十分であると考えられる。具体数に戻りながら、丁寧に扱う必要がある。
- ・〔6(2)〕について、正答であっても説明の記述が十分とはいえない生徒が23.9%いる。その中でも特に、「 $2(a+b+c)$ が○に入れた整数の和の2倍であること」は示しているが、「 $a+b+c$ 」が何を表しているのかを示していない生徒が14.3%いる。目的に応じて式を変形し、その意味を読み取り、成り立つ理由を根拠を明らかにして説明ができるよう指導する必要がある。
- ・〔6(3)〕について、無解答の生徒が27.5%いる。正三角形を正四面体に変えた場合に「2倍」がどのように変わるかを具体的な整数で計算して予想したり、文字を用いて明らかにし、その上で見いだした事柄を「●●は◆◆である」という形で表現できるよう指導することも必要である。

<授業改善のポイント> 国立教育政策研究所「授業アイデア例(令和6年度)」

URL : [24mmath_idea_06.pdf](https://www.nier.go.jp/24chousakekkahoukoku/report/data/24mmath_idea_06.pdf)

(https://www.nier.go.jp/24chousakekkahoukoku/report/data/24mmath_idea_06.pdf#page=11)

◎ 大問6(2)で説明した正三角形の各頂点の○に入れた整数の和と各辺の口に入る整数の和の間にある関係をもとに、自分が選択した他の図形ではどのような関係があるかを具体的な整数から予想したり、文字を用いて明らかにする事例である。解決の過程を振り返り、見付けた関係を整理し、統合的・発展的に考察できるようにすることが大切である。

全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎、○)と課題(▲)

○回転移動について理解しているかどうかをみる

〔3〕(府の正答率 66.9%、全国の正答率 68.3%)

▲筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる

〔9(1)〕(府の正答率 25.3%、全国の正答率 25.8%)

▲事象を角の大きさに着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見いだすことができるかどうかをみる

〔9(2)〕(府の正答率 27.0%、全国の正答率 26.7%)

解説

- ・〔3〕について、移動前と移動後の2つの図形の頂点の対応を読み取ることができていない生徒が32.7%いる。紙で作った図形を動かしたり、コンピュータで図形が動く様子を観察し、移動前と移動後の2つの図形の関係を捉え、図形の移動の性質を見いだすことができるようにすることが必要がある。
- ・〔9(1)〕について、無解答の生徒が32.8%おり、解答していても結論の $AQ=PB$ を仮定として用いている生徒が10.2%いる。 $AQ=PB$ を導くために $\triangle QAC \equiv \triangle BPC$ を示せばよいことに気づき、 $\triangle QAC$ と $\triangle BPC$ において対応する辺や角の大きさについて分かることを整理し、合同を示すために必要な関係を見いだすことができるように指導する必要がある。その際に、結論は根拠として用いることはできないことを確認することも大切である。
- ・〔9(2)〕について、 $\angle AQC$ と $\angle BPC$ の和に1人1台端末等を活用して操作して成り立つと予想される事柄を見だし、その事柄が成り立つことを論理的に考察し表現できるように指導することが大切である。

<授業改善のポイント> 国立教育政策研究所「学習活動の例(令和6年度)」

URL: [24mmath_idea_09.pdf](https://www.nier.go.jp/24chousakekkahoukoku/report/data/24mmath_idea_09.pdf)

(https://www.nier.go.jp/24chousakekkahoukoku/report/data/24mmath_idea_09.pdf)

- ◎ 大問9(2)について、正三角形を正方形に変えた場合について考察する学習活動の例が紹介されている。観察や操作、実験などの活動を通して、成り立つと予想される事柄を見だし、その事柄が成り立つことを論理的に考察し表現できるようにするとともに、条件を変えても成り立つ事柄を見いだすなど、統合的・発展的に考察できるようにすることも必要である。

全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎、○)と課題(▲)

○一次関数について、式とグラフの特徴を関連付けて理解しているかどうかをみる

〔4〕(府の正答率 63.4%、全国の正答率 65.3%)

◎二つのグラフにおける y 軸との交点について、事象に即して解釈することができるかどうかをみる

〔8(1)〕(府の正答率 83.9%、全国の正答率 83.4%)

▲事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる

〔8(2)〕(府の正答率 16.8%、全国の正答率 17.1%)

○グラフの傾きや交点の意味を事象に即して解釈することができるかどうかをみる

〔8(3)〕(府の正答率 76.6%、全国の正答率 76.9%)

解説

- ・〔4〕について、 a の値を 1 より大きくするとグラフの傾き具合が小さくなると捉えている生徒が 19.1%いる。 a 、 b の一方の値を固定しもう一方の値を変化させるときにグラフがどのように変化していくのか観察する活動を取り入れ、 a 、 b の値の増減とグラフの変化の様子を関連付けて捉えることができるように指導する必要がある。
- ・〔8(1)〕について、グラフと座標軸との交点について、問題に即して何を表しているのか読み取ることができるように指導することが必要である。
- ・〔8(2)〕について、式やグラフを用いて使用時間の違いが何時間になるのか求める方法を数学的に表すことに課題がある。使用時間の違いを求めた後にその方法を十分な説明となるよう求めた過程を振り返りながら指導することも大切である。
- ・〔8(3)〕について、結衣さんがかいたグラフにおいて、点(2, 10)で直線の傾きが変わることに着目したり、ストーブの使用時間と灯油の残量に示された式やグラフを基に設定が「強」から「弱」に変わることを読み取れるよう指導する必要がある。

<授業改善のポイント> 国立教育政策研究所「授業アイデア例(令和6年度)」

URL : [24mmath_idea_08.pdf](https://www.nier.go.jp/24chousakekkahoukoku/report/data/24mmath_idea_08.pdf)

(https://www.nier.go.jp/24chousakekkahoukoku/report/data/24mmath_idea_08.pdf#page=12)

◎ 大問8について、使用時間の違いを求めた後にその方法を説明する事例である。十分な説明をできるようにするために、解決の方法として表現が不十分な説明を取り上げ、問題解決の見通しを共有した場面や使用時間の違いを求める過程を共有した場面を振り返りながら、十分な説明にしていけることが考えられる。

全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎、○)と課題(▲)

○簡単な場合について、確率を求めることができるかどうかをみる

〔5〕(府の正答率 77.5%、全国の正答率 73.1%)

○与えられたデータから最頻値を求めることができるかどうかをみる

〔7(1)〕(府の正答率 72.3%、全国の正答率 74.3%)

▲複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる

〔7(2)〕(府の正答率 25.4%、全国の正答率 25.9%)

▲複数の集団のデータの分布から、四分位範囲を比較することができるかどうかをみる

〔7(3)〕(府の正答率 48.6%、全国の正答率 48.5%)

解説

- ・〔5〕について、2枚の硬貨を投げたときの表と裏の出方について、樹形図や表などを利用して、起こり得る場合を落ちや重なりがないように数え上げることができるよう指導する必要がある。
- ・〔7(1)〕について、他の代表値と混同して答えている生徒が 14.2%いる。意味を正しく理解できるように指導する必要がある。
- ・〔7(2)〕について、複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉えることや、複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉えることができても、その判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。判断できる理由について、箱ひげ図を比較し、箱の位置や四分位数などを根拠として説明できるようにすることが大切である。

<授業改善のポイント> 国立教育政策研究所「授業アイデア例(令和6年度)」

URL : [24mmath_idea_07.pdf](https://www.nier.go.jp/24chousakekkahoukoku/report/data/24mmath_idea_07.pdf)

(https://www.nier.go.jp/24chousakekkahoukoku/report/data/24mmath_idea_07.pdf#page=8)

- ◎ 車型ロボットが進んだ距離について、データの分布の傾向を基に調べる事例である。データの分布の傾向について批判的に考察し判断するとともに、判断した事柄について根拠を明らかにして説明できるようにすることが大切である。

IV 兒童生徒質問調査結果

1 児童生徒質問調査について

全国学力・学習状況調査では、質問調査項目を下記Ⅱ～Ⅳの領域に分けています。

また、これらの領域番号ごとに京都府（京都市を除く）の結果チャートを示しています。

各学校の結果にも学校ごとの結果チャートが掲載されているので、学校の現状が分かります。

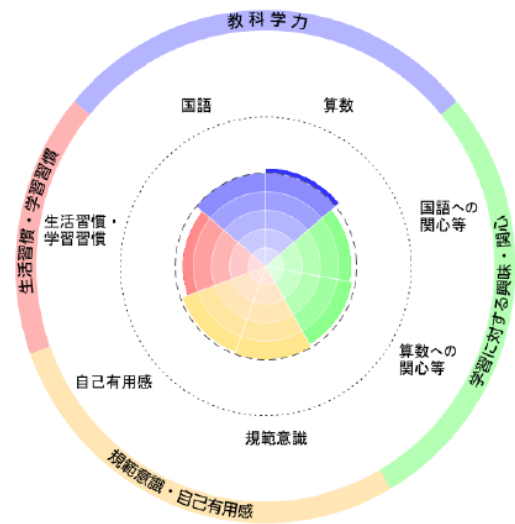
【小学校】

結果チャート（内側の線が全国平均）

＜令和6年度調査の領域名と児童質問の質問番号の対応一覧表＞

領域番号		領域名	小学校児童質問 対応領域・項目番号
Ⅰ	1	教科学力	国語
	2		算数
Ⅱ	3	学習に対する 興味・関心	国語への関心等 (42)～(45)
	4		算数への関心等 (50)～(53)
Ⅲ	5	規範意識・ 自己有用感	規範意識 (12)(13)(15)
	6		自己有用感 (9)～(11)
Ⅳ	7	生活習慣・ 学習習慣	生活習慣・学習習慣 (1)～(3)(20)～(22)

※領域番号1～2については、各教科の全国平均正答率を基準として比較したものである。
※領域番号3～7については、「小学校児童質問対応領域・項目番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。



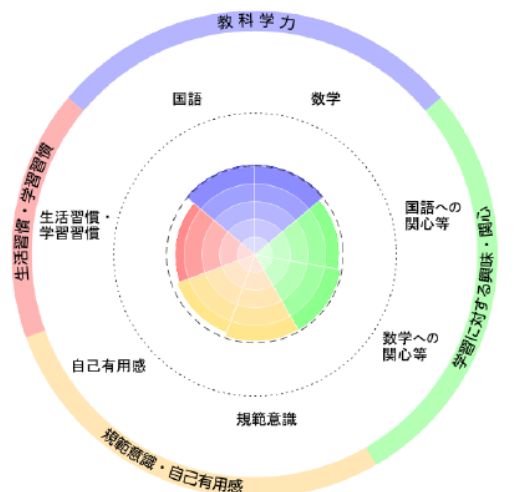
【中学校】

結果チャート（内側の線が全国平均）

＜令和6年度調査の領域名と生徒質問の質問番号の対応一覧表＞

領域番号		領域名	中学校生徒質問 対応領域・項目番号
Ⅰ	1	教科学力	国語
	2		数学
Ⅱ	3	学習に対する 興味・関心	国語への関心等 (42)～(45)
	4		数学への関心等 (50)～(53)
Ⅲ	5	規範意識・ 自己有用感	規範意識 (12)(13)(15)
	6		自己有用感 (9)～(11)
Ⅳ	7	生活習慣・ 学習習慣	生活習慣・学習習慣 (1)～(3)(20)～(22)

※領域番号1～2については、各教科の全国平均正答率を基準として比較したものである。
※領域番号3～7については、「中学校生徒質問対応領域・項目番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。



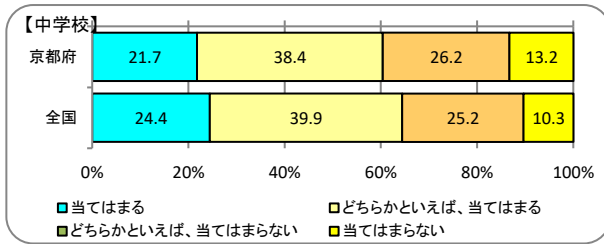
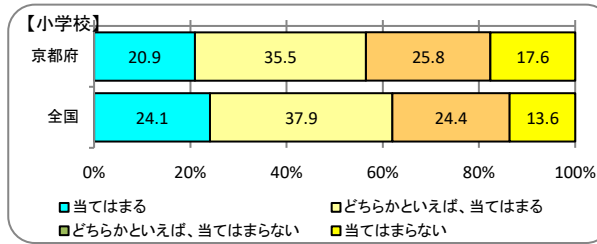
結果チャートに示された京都府（京都市を除く）の傾向を、領域ごとに次のページから見ていきます。

2 児童生徒質問の調査結果について

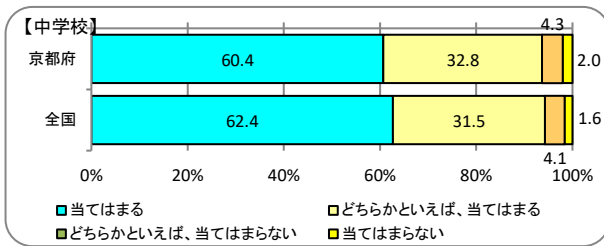
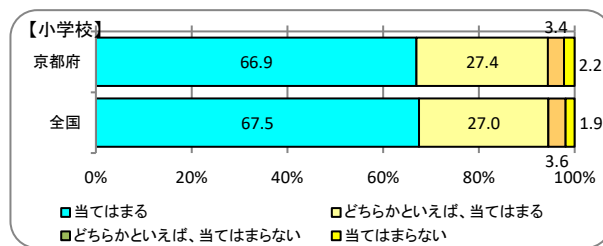
(1) 国語への関心等

京都府のデータは京都市を除いています

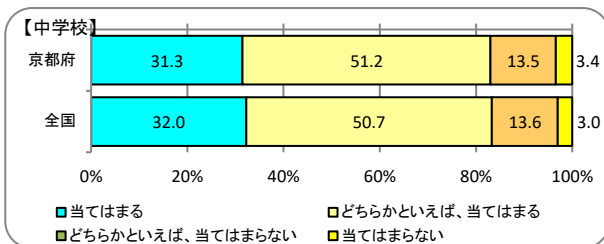
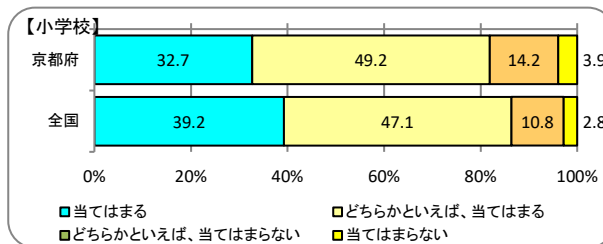
Q42：国語の勉強は好きですか



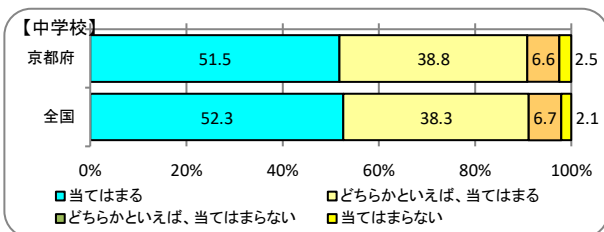
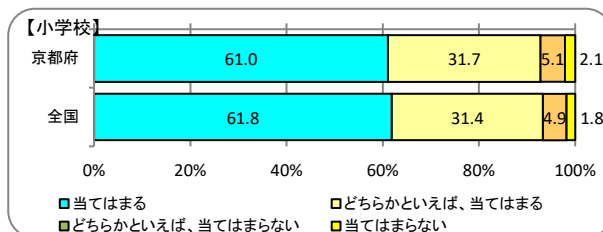
Q43：国語の勉強は大切だと思いますか



Q44：国語の授業の内容はよく分かりますか



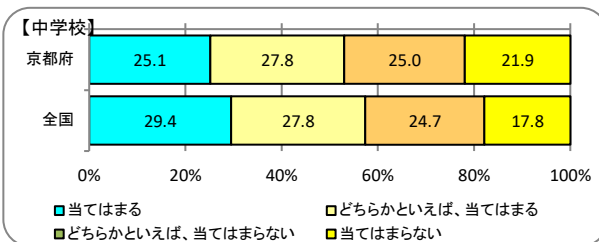
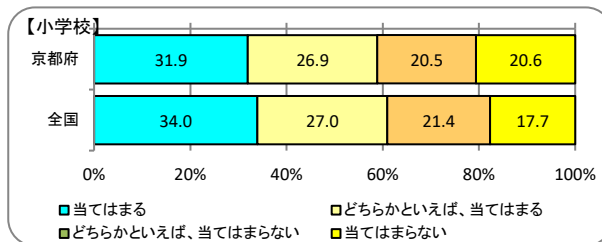
Q45：国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか



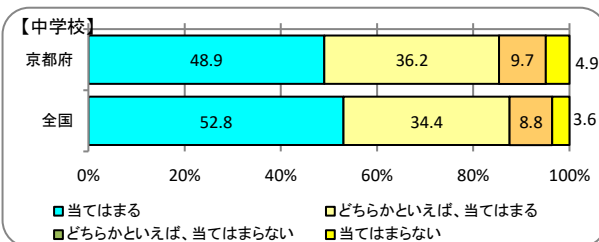
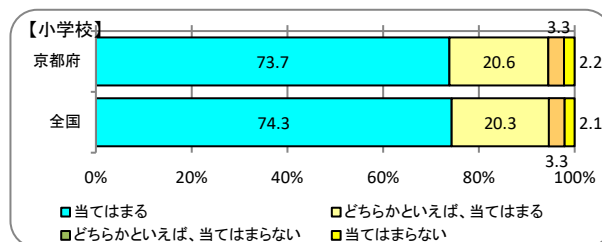
(2) 算数【数学】への関心等

京都府のデータは京都市を除いています

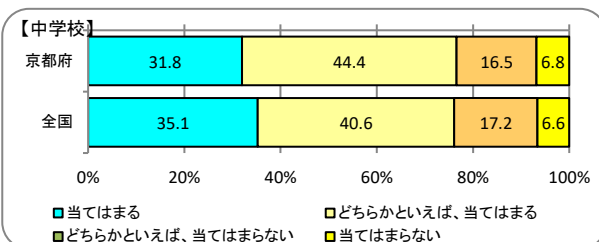
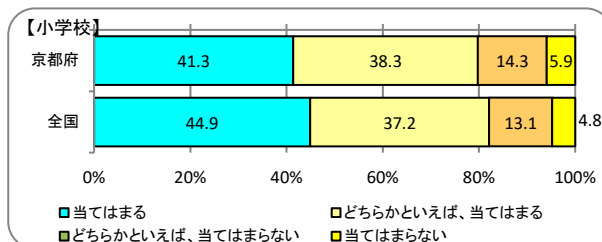
Q50：算数【数学】の勉強は好きですか



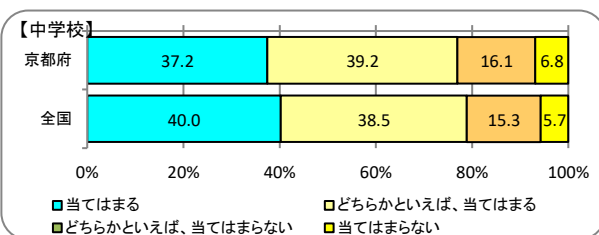
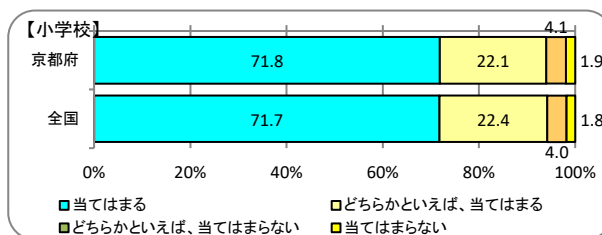
Q51：算数【数学】の勉強は大切だと思いますか



Q52：算数【数学】の授業の内容はよく分かりますか



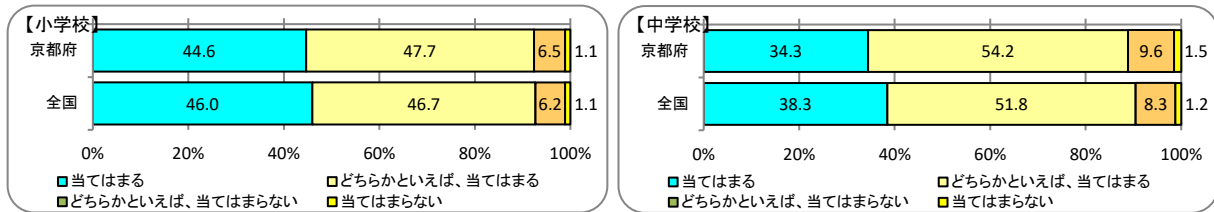
Q53：算数【数学】の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか



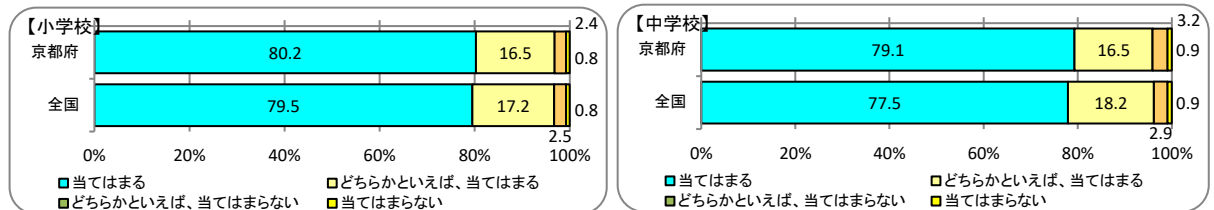
(3) 規範意識

京都府のデータは京都市を除いています

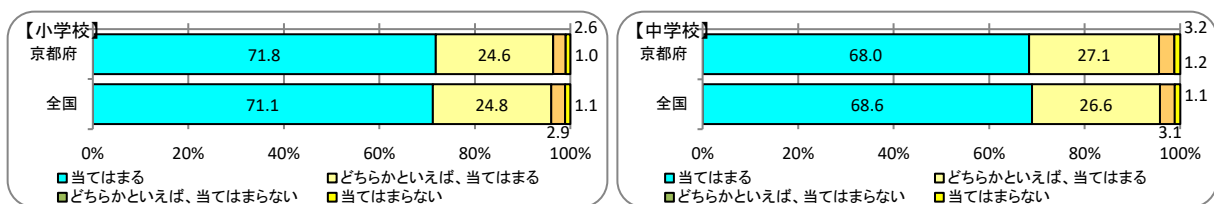
Q12：人が困っているときは、進んで助けていますか



Q13：いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



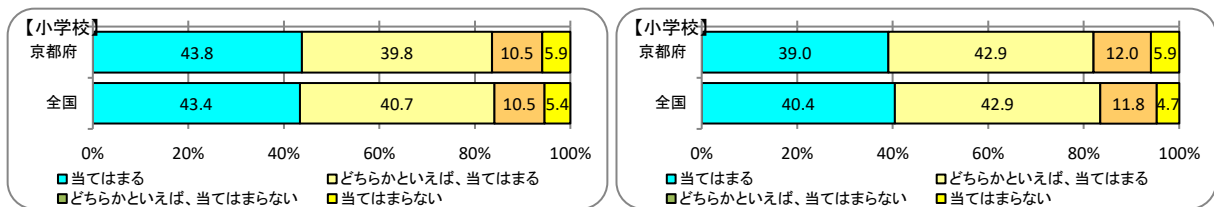
Q15：人の役に立つ人間になりたいと思いますか



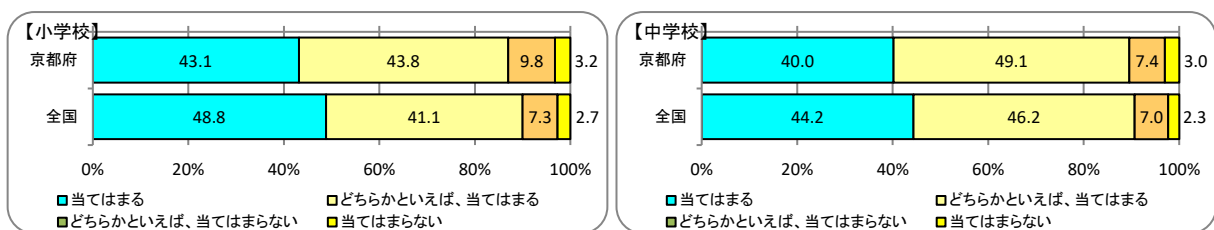
(4) 自己有用感

京都府のデータは京都市を除いています

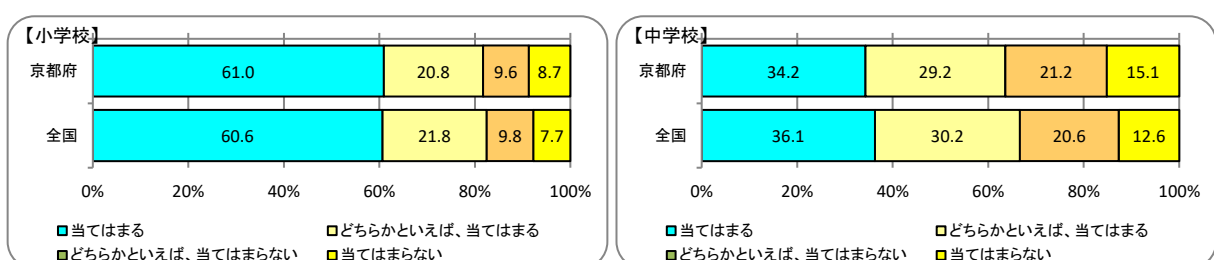
Q9：自分には、よいところがあると思いますか



Q10：先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



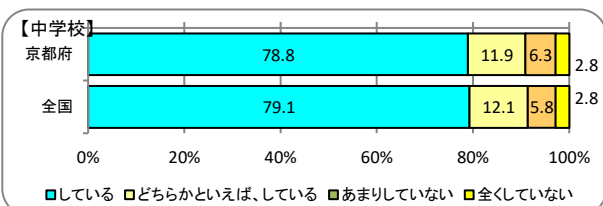
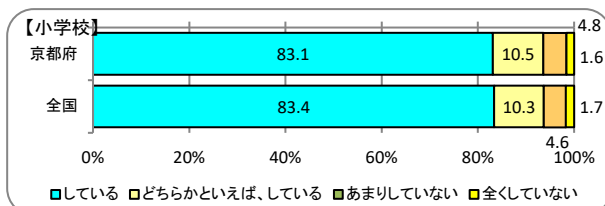
Q11：将来の夢や目標を持っていますか



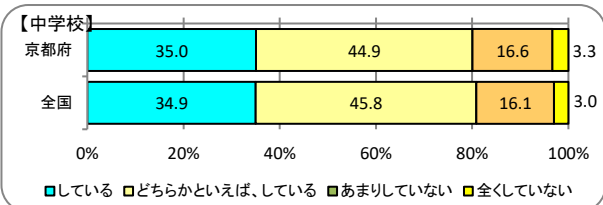
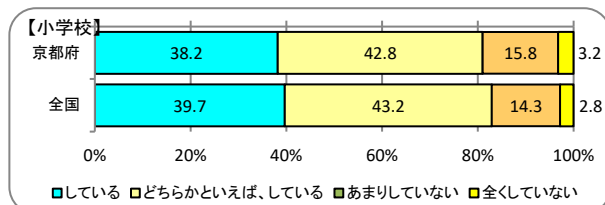
(5)生活習慣・学習習慣

京都府のデータは京都市を除いています

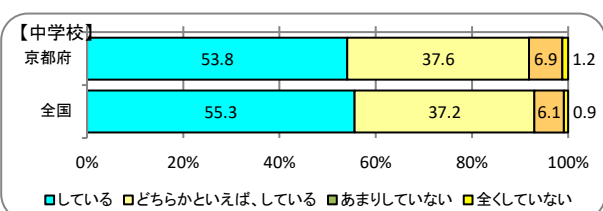
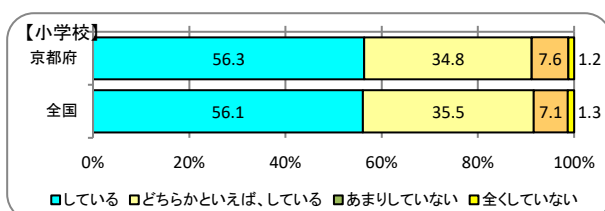
Q1：朝食を毎日食べていますか



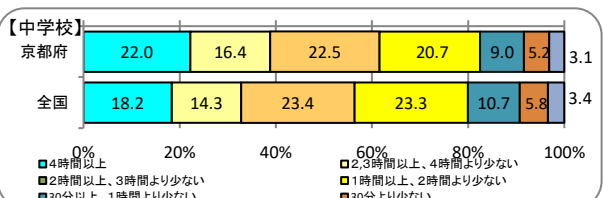
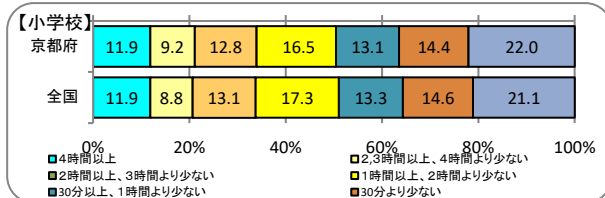
Q2：毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか



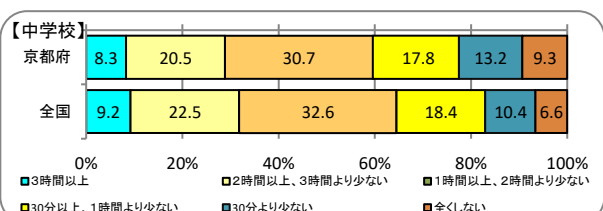
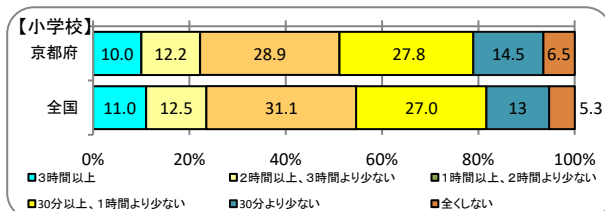
Q3：毎日、同じくらいの時刻に起きていますか



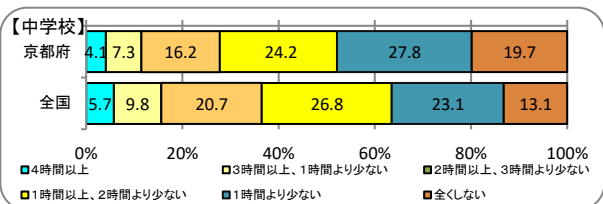
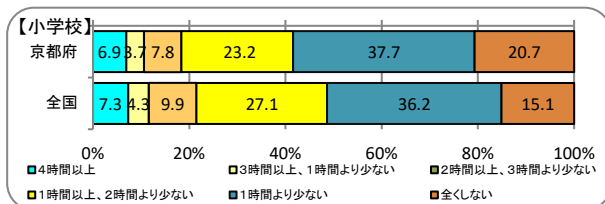
Q6：普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか（学習する時間やゲームをする時間は除く）



Q21：学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）



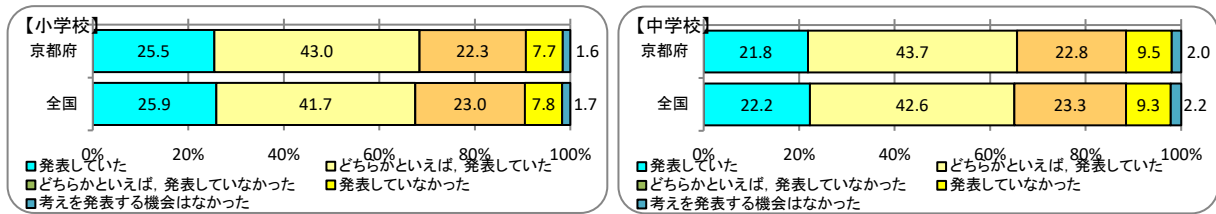
Q22：土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）



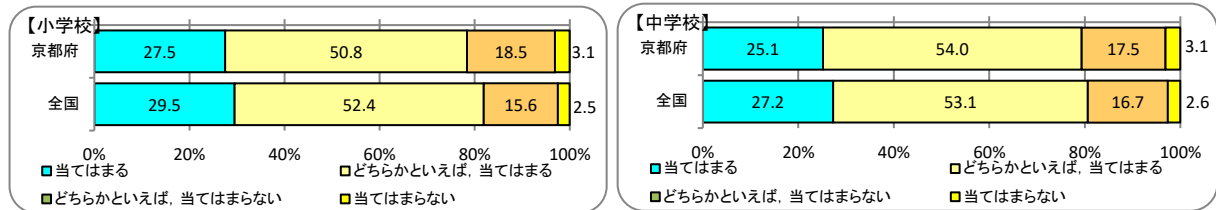
(6) その他

京都府のデータは京都市を除いています

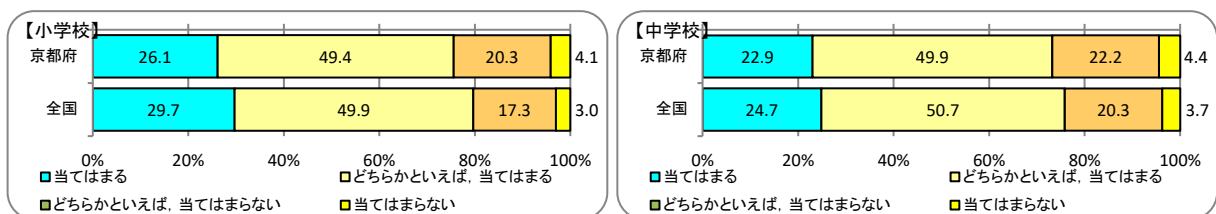
Q29：5年生までに【1,2年生のときに】受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか



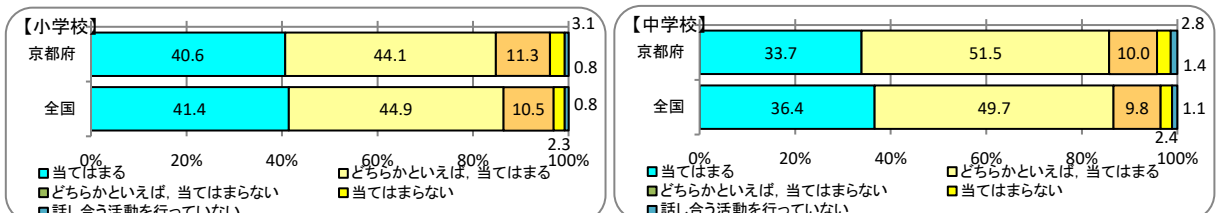
Q30：5年生までに【1,2年生のときに】受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか



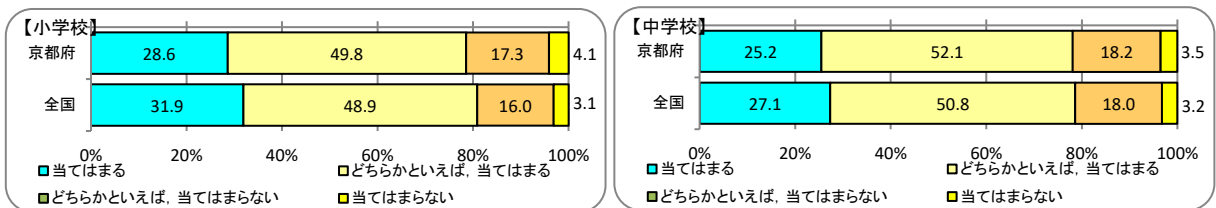
Q31：5年生までに【1,2年生のときに】受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか



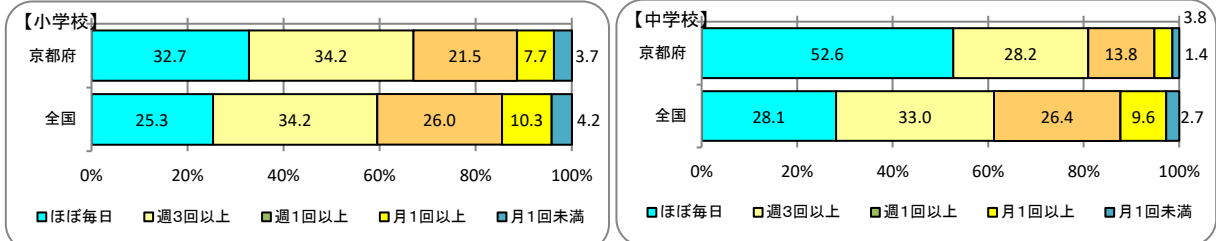
Q33：学級の友達【生徒】との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることができていますか



Q34：学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか



Q27：5年生までに【1,2年生のときに】受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか



V 学校質問調査結果

1 学校質問調査について

全国学力・学習状況調査では、質問調査項目を下記Ⅱ～Ⅳの領域に分けています。

また、これらの領域番号ごとに京都府（京都市を除く）の結果チャートを示しています。

各学校の結果にも学校ごとの結果チャートが掲載されているので、学校の現状が分かります。

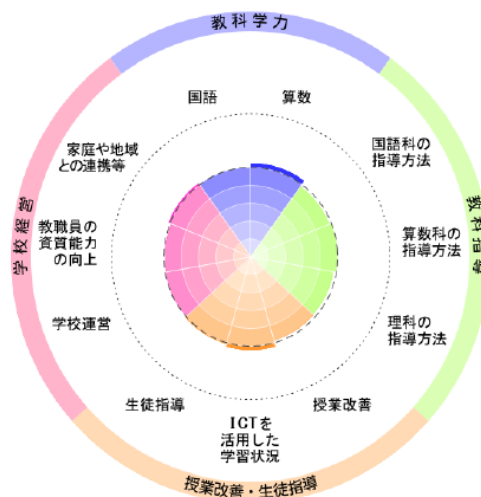
【小学校】

結果チャート（内側の線が全国平均）

＜令和6年度調査の領域名と学校質問の質問番号の対応一覧表＞

領域番号		領域名	小学校学校質問 対応領域・項目番号
Ⅰ	1	教科学力	国語
	2		算数
Ⅱ	3	教科指導	国語科の指導方法 (41)～(44)
	4		算数科の指導方法 (45)～(48)
	5		理科の指導方法 (49)～(51)
Ⅲ	6	授業改善・ 生徒指導	授業改善 (25)～(35)
	7		ICTを活用した学習状況 (53)～(61)
	8		生徒指導 (7)(8)
Ⅳ	9	学校経営	学校運営 (12)～(14)(75)
	10		教職員の資質能力の向上 (16)～(18)
	11		家庭や地域との連携等 (69)(70)

※領域番号1～2については、各教科の全国平均正答率を基準として比較したものである。
 ※領域番号3～11については、「小学校学校質問対応領域・項目番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。



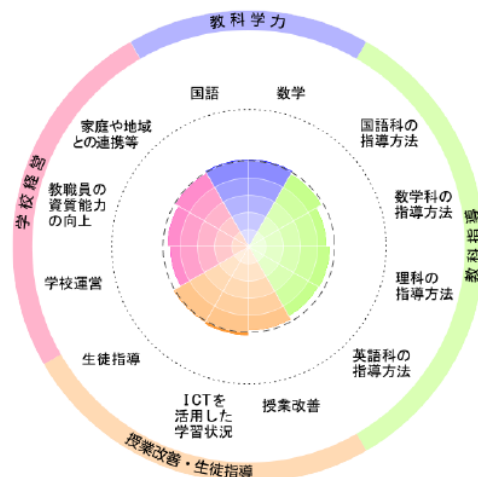
【中学校】

結果チャート（内側の線が全国平均）

＜令和6年度調査の領域名と学校質問の質問番号の対応一覧表＞

領域番号		領域名	中学校学校質問 対応領域・項目番号
Ⅰ	1	教科学力	国語
	2		数学
Ⅱ	3	教科指導	国語科の指導方法 (41)～(44)
	4		数学科の指導方法 (45)～(48)
	5		理科の指導方法 (49)～(51)
	6		英語科の指導方法 (52)～(56)
Ⅲ	7	授業改善・ 生徒指導	授業改善 (25)～(35)
	8		ICTを活用した学習状況 (57)～(65)
	9		生徒指導 (7)(8)
Ⅳ	10	学校経営	学校運営 (12)～(14)(79)
	11		教職員の資質能力の向上 (16)～(18)
	12		家庭や地域との連携等 (73)(74)

※領域番号1～2については、各教科の全国平均正答率を基準として比較したものである。
 ※領域番号3～12については、「中学校学校質問対応領域・項目番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。



結果チャートに示された京都府（京都市を除く）の傾向を、領域ごとに次のページから見ていきます。

2 学校質問の調査結果について

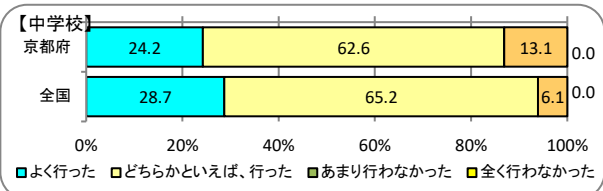
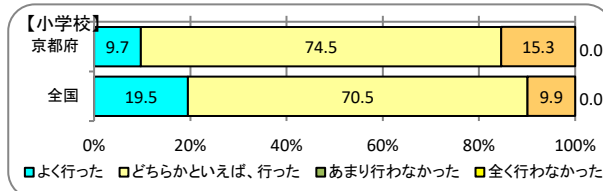
(1) 国語科の指導方法

京都府のデータは京都市を除いています

【知識及び技能】

(小) Q41: 調査対象学年の児童に対する国語の授業において、前年度までに、情報と情報との関係付けの仕方、図などに語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるような指導を行いましたか

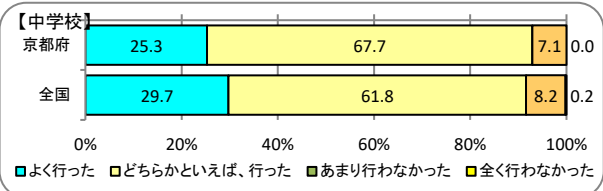
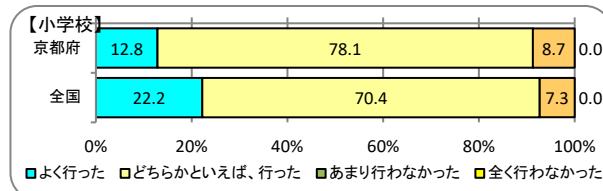
(中) Q41: 調査対象学年の生徒に対する国語の授業において、前年度までに、話を聞いたり文章を読んだりするときに、具体的な情報と抽象的な情報との関係を捉えて理解することができるような指導を行いましたか



【話すこと・聞くこと】

(小) Q42: 調査対象学年の児童に対する国語の授業において、前年度までに、目的や意図、場面の状況に応じて、集めた材料を分類したり関係付けしたりして、話す内容を検討することができるような指導を行いましたか

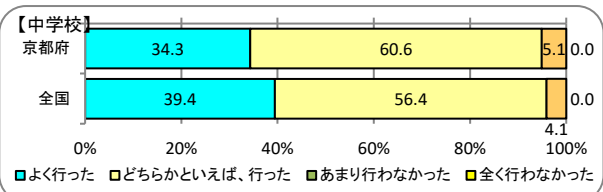
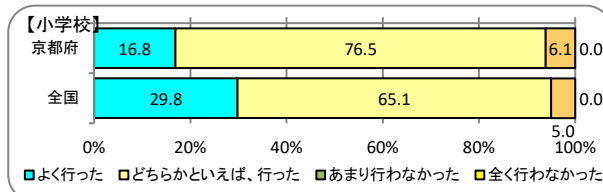
(中) Q42: 調査対象学年の生徒に対する国語の授業において、前年度までに、話題や展開を捉えながら話し合い、他愛の発言を結び付けて考えをまとめることができるような指導を行いましたか



【書くこと】

(小) Q43: 調査対象学年の児童に対する国語の授業において、前年度までに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書くことができるような指導を行いましたか

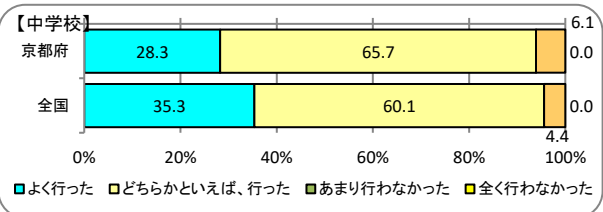
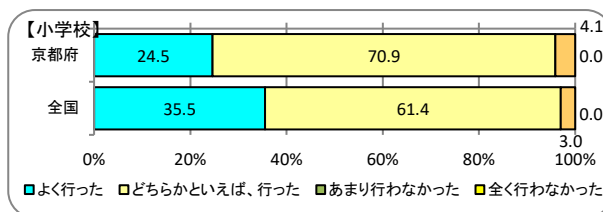
(中) Q43: 調査対象学年の生徒に対する国語の授業において、前年度までに、自分の考えが伝わるように、表現の効果を考えて文章を書く指導を行いましたか



【読むこと】

(小) Q44: 調査対象学年の児童に対する国語の授業において、前年度までに、登場人物の人物像や物語の全体像を具体的に想像し、表現の効果を考えて読むことができるような指導を行いましたか

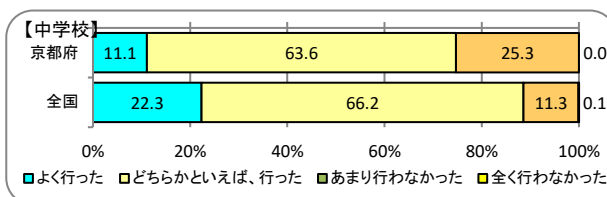
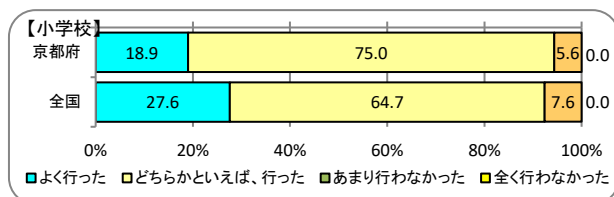
(中) Q44: 調査対象学年の生徒に対する国語の授業において、前年度までに、説明的な文章を読み、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈することができるような指導を行いましたか



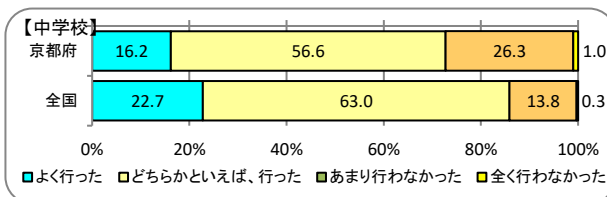
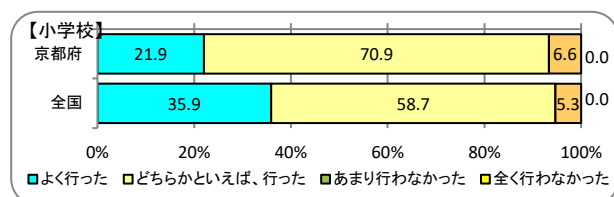
(2) 算数【数学】科の指導方法

京都府のデータは京都市を除いています

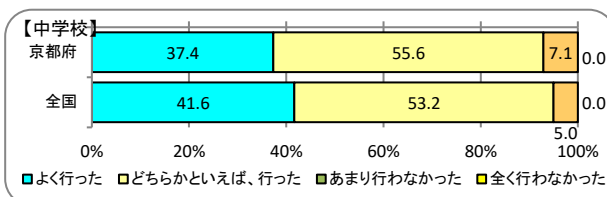
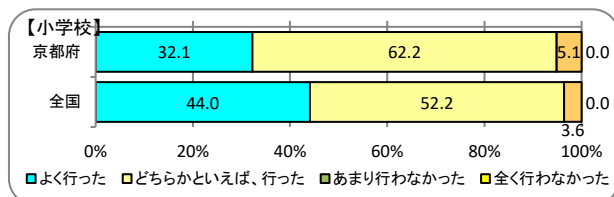
Q45：調査対象学年の児童【生徒】に対する算数【数学】の授業において、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか



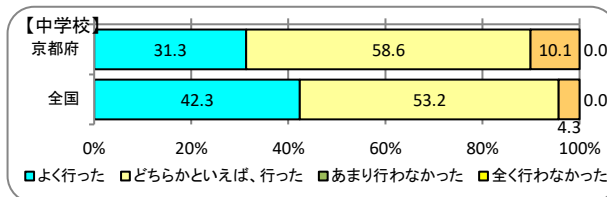
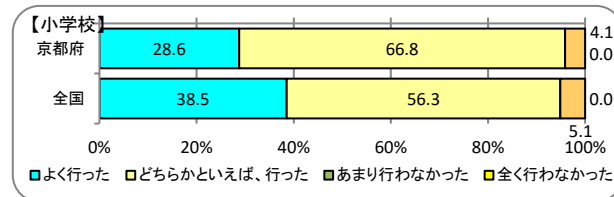
Q46：調査対象学年の児童【生徒】に対する算数【数学】の授業において、前年度までに、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習【観察や操作、実験等】を通して、数量や図形について実感を伴った理解をする【数量や図形等の性質を見いだす】活動を行いましたか



Q47：調査対象学年の児童【生徒】に対する算数【数学】の授業において、前年度までに、問題の答えを求めさせるだけでなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、児童【生徒】に筋道を立てて説明させるような授業を行いましたか



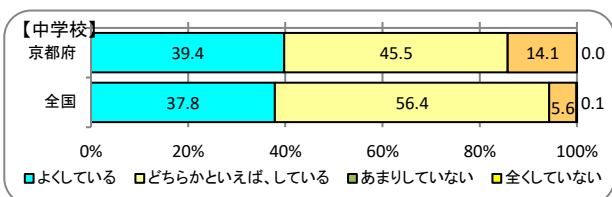
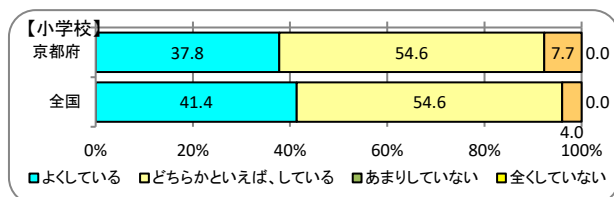
Q48：調査対象学年の児童【生徒】に対する算数【数学】の授業において、前年度までに、児童【生徒】がどのようなことにつまずくのか想定した授業を行いましたか



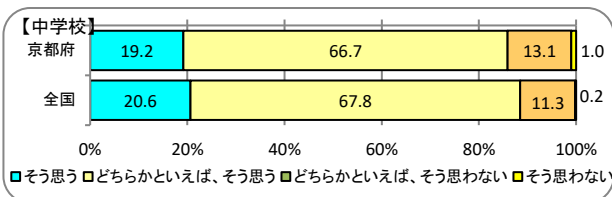
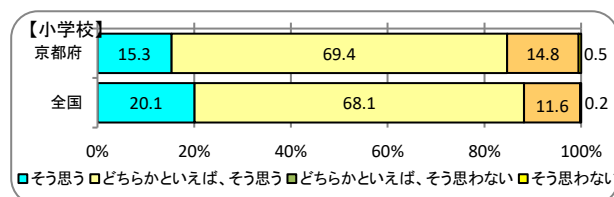
(3) 授業改善

京都府のデータは京都市を除いています

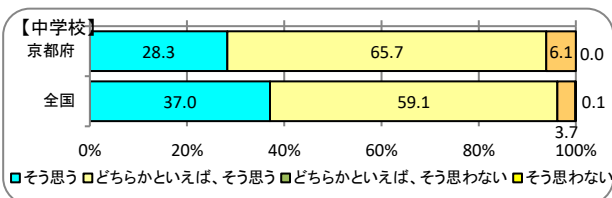
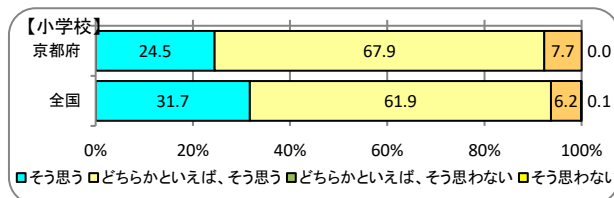
Q15：言語活動について、国語科と要として、各教科の特質に応じて、学校全体として取り組んでいますか



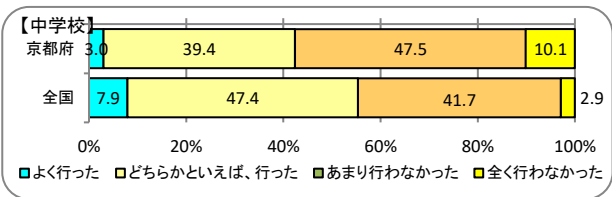
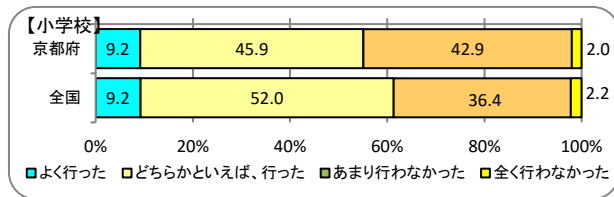
Q25：調査対象学年の児童【生徒】は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができますか



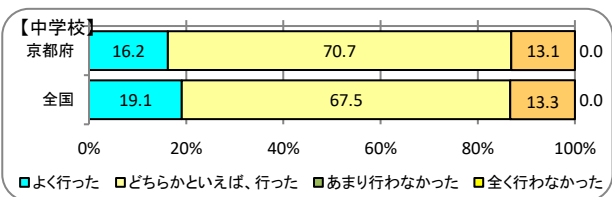
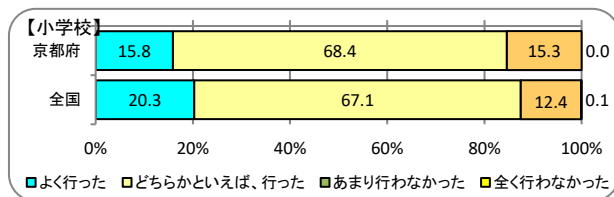
Q28：調査対象学年の児童【生徒】は、授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを自分の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいると思いますか



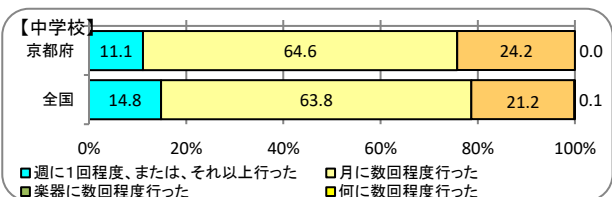
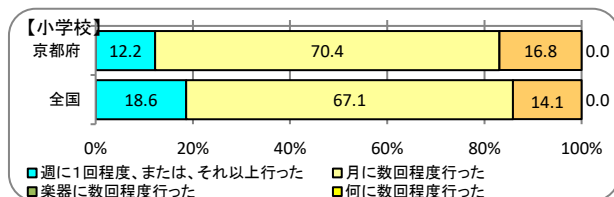
Q29：調査対象学年の児童【生徒】は、授業では、自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を行っていますか



Q34：調査対象学年の児童【生徒】に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか



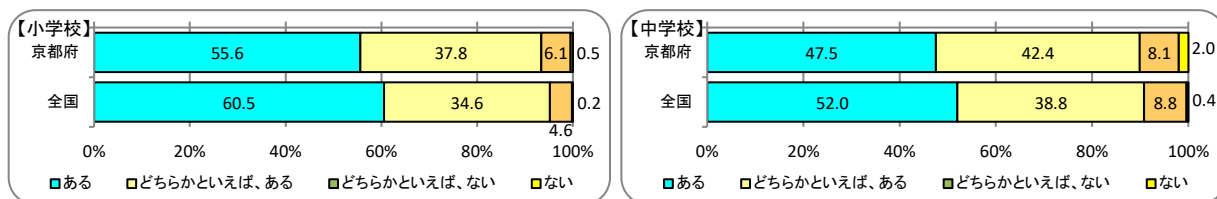
Q35：調査対象学年の児童【生徒】に対して、前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか



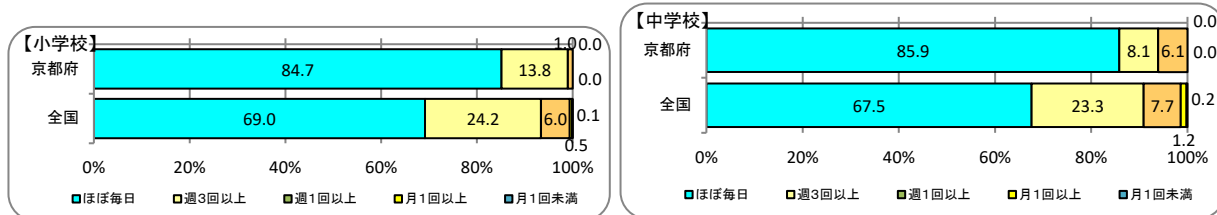
(4) ICT

京都府のデータは京都市を除いています

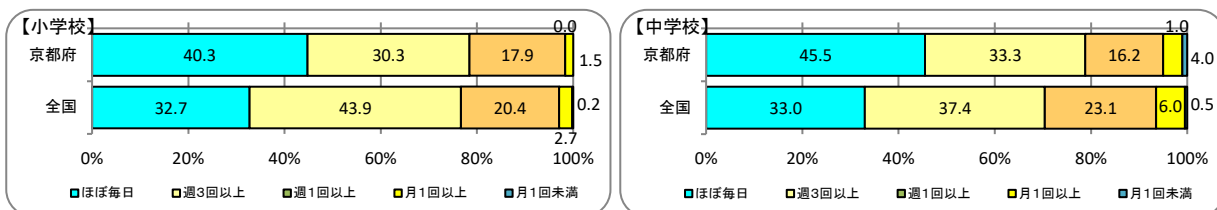
(小)Q54(中)Q58：教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会がありますか



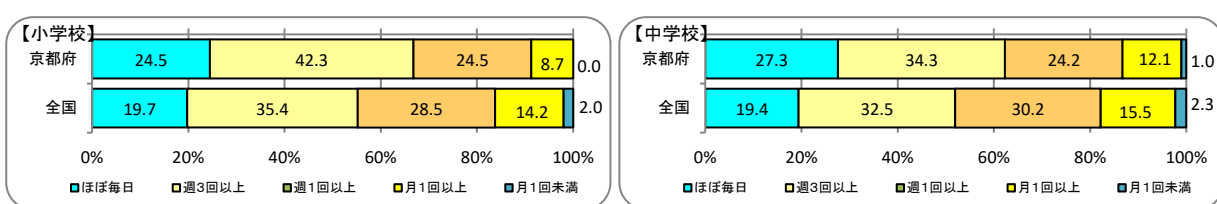
(小)Q56(中)Q60：調査対象学年の児童【生徒】に対して、前年度までに、一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか



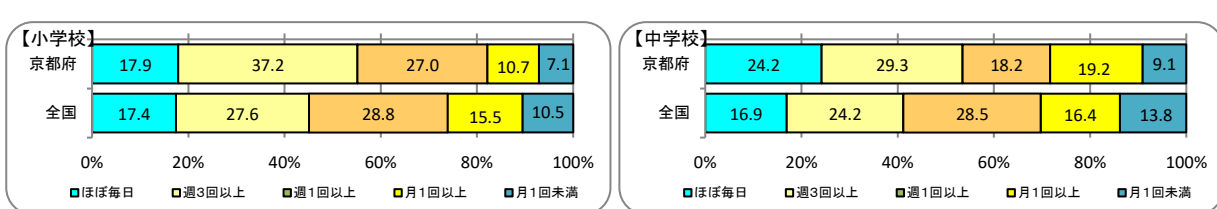
(小)Q57(中)Q61：調査対象学年の児童【生徒】が自分で調べる場面（ウェブブラウザによるインターネット検索等）では、児童【生徒】一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか



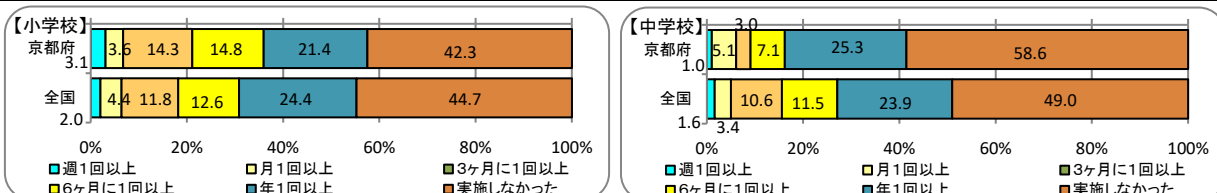
(小)Q58(中)Q62：調査対象学年の児童【生徒】が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童【生徒】一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか



(小)Q60(中)Q64：調査対象学年の児童【生徒】同士がやりとりする場面では、児童【生徒】一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか



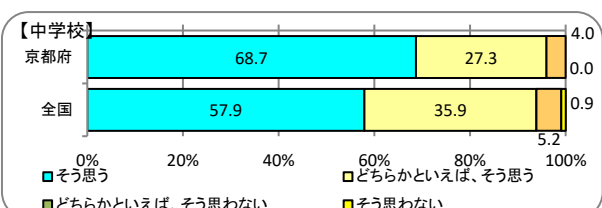
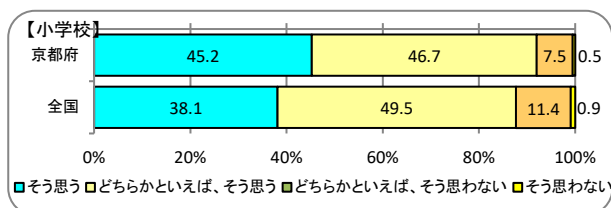
(小)Q62(中)Q66：前年度に、児童【生徒】一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を使って、児童【生徒】が学校外の施設（他の学校や社会教育施設、民間企業等）にいる人々とやりとりする取組をどの程度実施しましたか



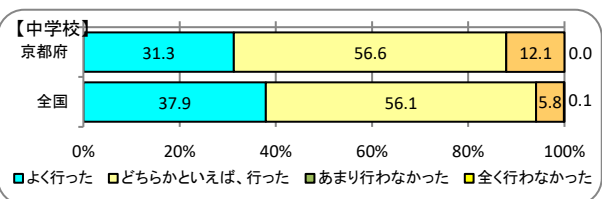
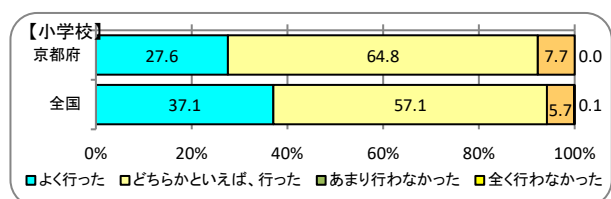
(5) 生徒指導

京都府のデータは京都市を除いています

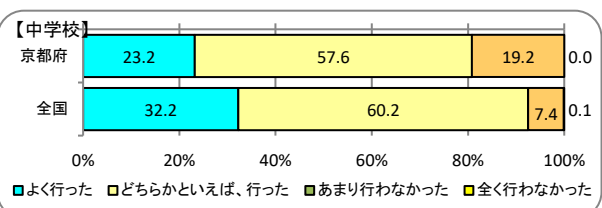
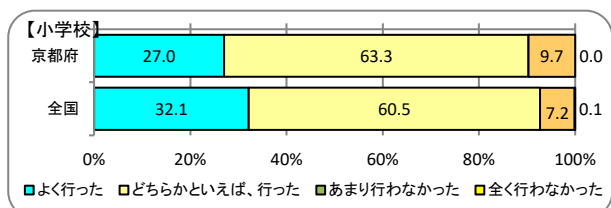
Q7：調査対象学年の児童【生徒】は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか



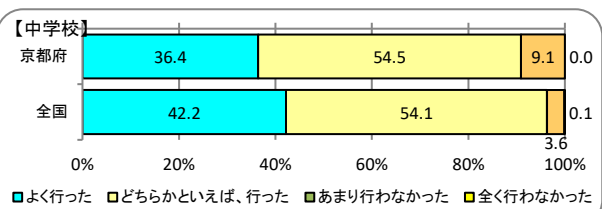
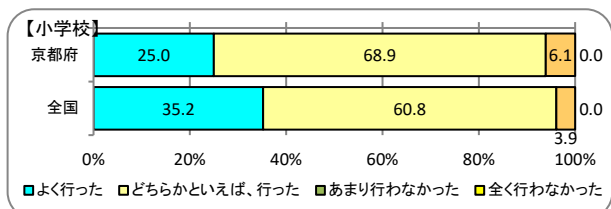
Q37：調査対象学年の児童【生徒】に対して、学級生活をよりよくするために、学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法等を合意形成できるような指導を行っていますか



Q38：調査対象学年の児童【生徒】に対して、学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の生徒が意思決定できるような指導を行っていますか



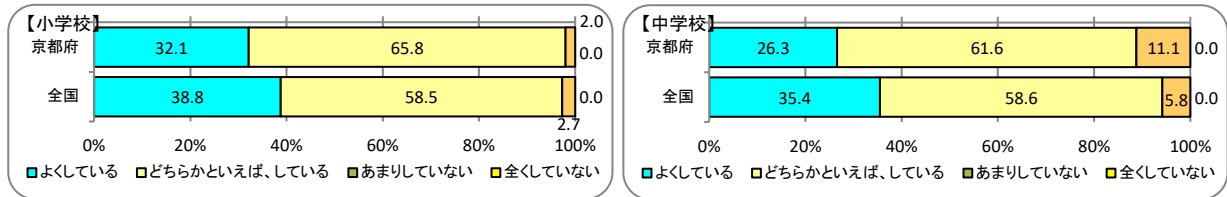
Q39：調査対象学年の児童【生徒】に対して、特別の教科 道徳において、取り上げる題材を生徒自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしていますか



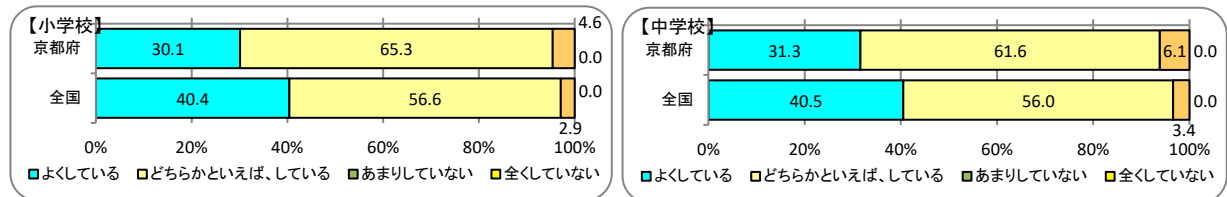
(6) 学校運営

京都府のデータは京都市を除いています

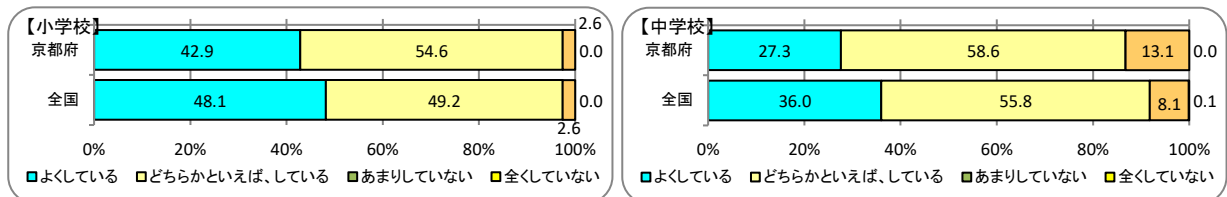
Q12：指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していますか



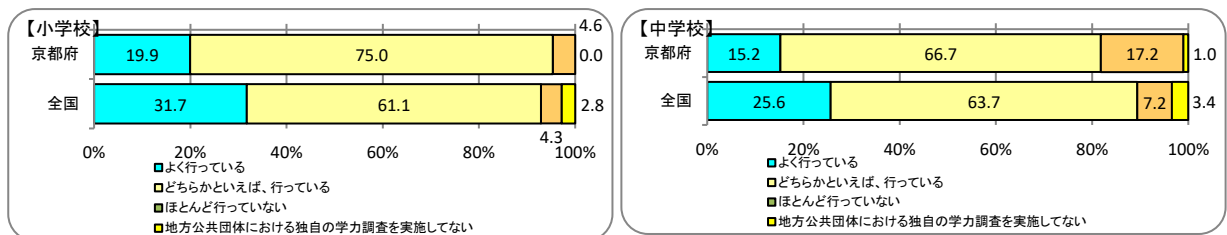
Q13：児童【生徒】の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか



Q14：指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか



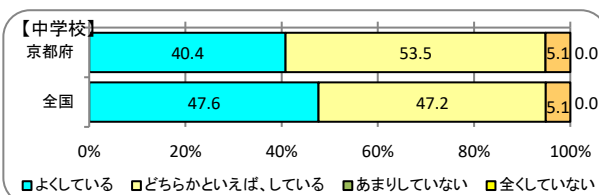
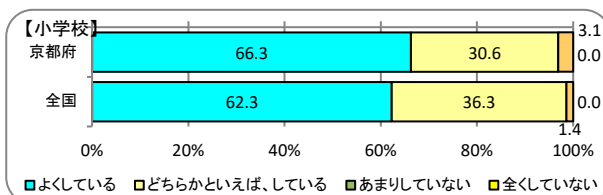
(小) Q75 (中) Q79：全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っていますか



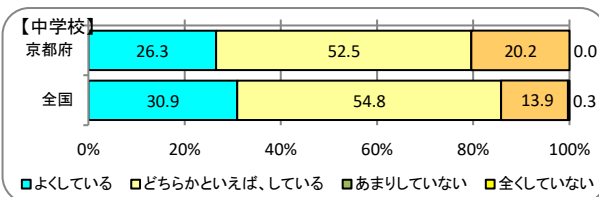
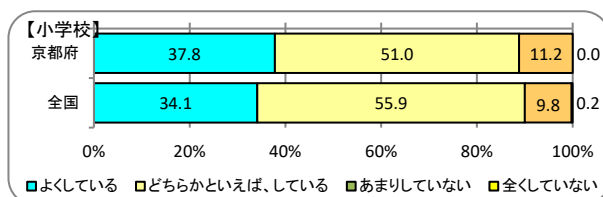
(7) 教職員の資質能力の向上

京都府のデータは京都市を除いています

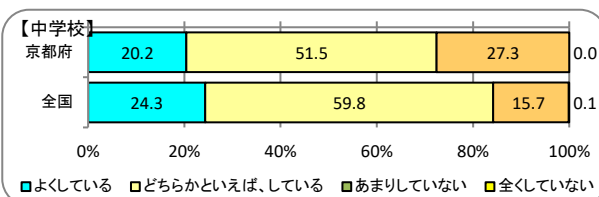
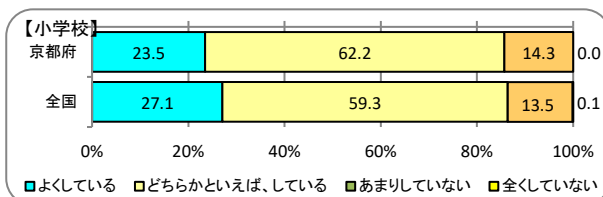
Q16：授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか



Q17：児童【生徒】自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っていますか

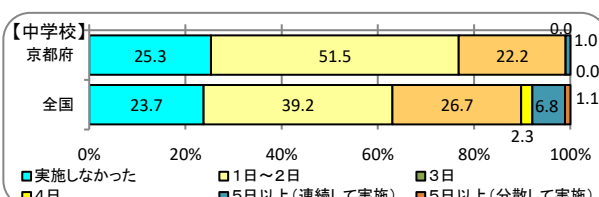
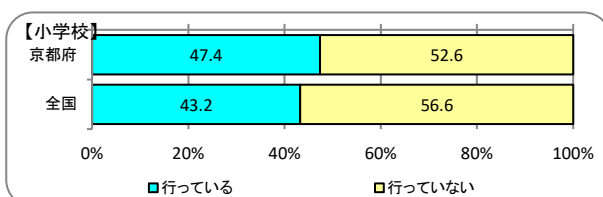


Q18：個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか（オンラインでの参加を含む）

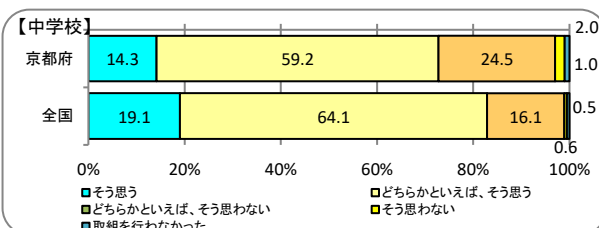
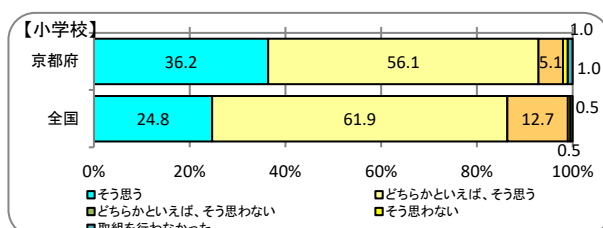


(8) 家庭や地域との連携等

(小)Q69(中)Q73：(小) 職場見学を行っていますか(中) 調査対象学年の生徒に対して、前年度に、職場体験活動を何日程度行いましたか



(小)Q70(中)Q74：コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まりましたか



VI 調査から見えてくる課題と成果

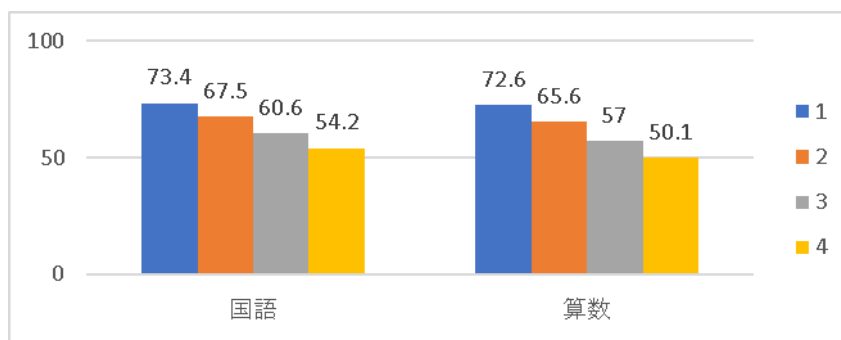
質問調査の分析から

児童生徒質問と学力のクロス分析

【小学校】

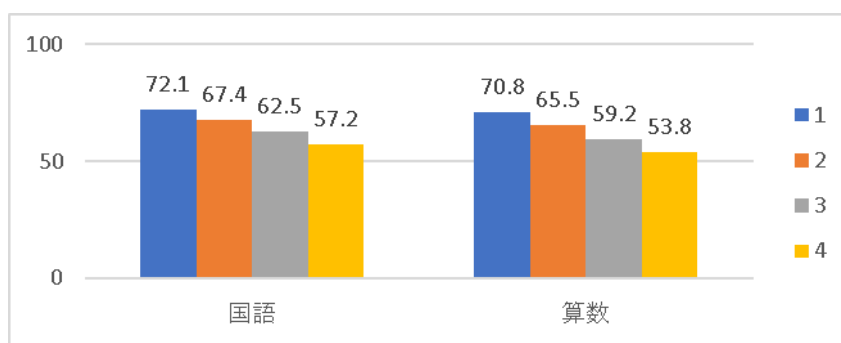
○以下の質問項目に肯定的に回答している児童ほど、**2教科とも正答率が高い傾向**が見られた。

Q30：授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた



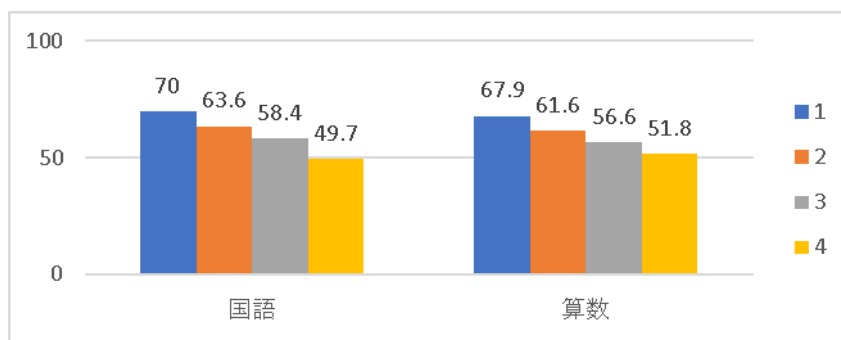
1 当てはまる / 2 どちらかといえば、当てはまる / 3 どちらかといえば、当てはまらない / 4 当てはまらない

Q34：学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか



1 当てはまる / 2 どちらかといえば、当てはまる / 3 どちらかといえば、当てはまらない / 4 当てはまらない

Q49：国語の授業で、物語を読むときに、登場人物の性格や特徴、物語全体を具体的にイメージし、どのような表現で書かれているのかに着目していますか

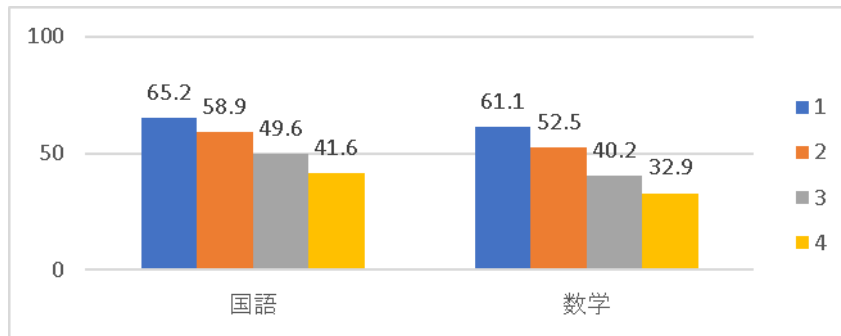


1 当てはまる / 2 どちらかといえば、当てはまる / 3 どちらかといえば、当てはまらない / 4 当てはまらない

【中学校】

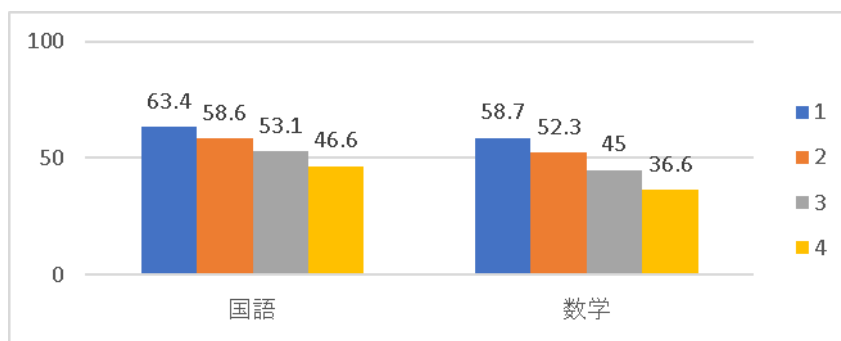
○以下の質問項目に肯定的に回答している生徒ほど、**2教科とも正答率が高い傾向**が見られた。

Q30：授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた



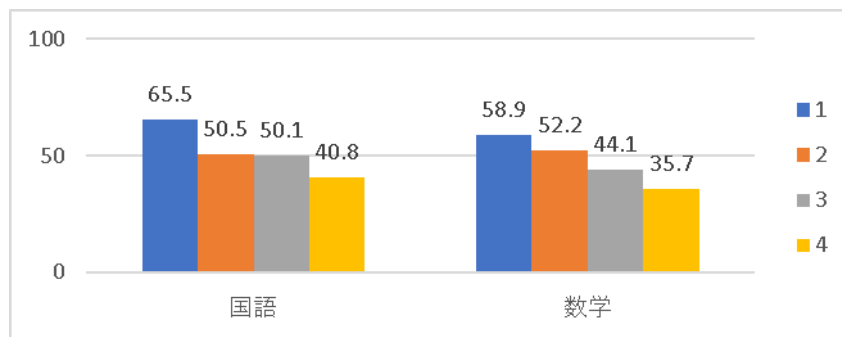
1 当てはまる / 2 どちらかといえば、当てはまる / 3 どちらかといえば、当てはまらない / 4 当てはまらない

Q34：学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか



1 当てはまる / 2 どちらかといえば、当てはまる / 3 どちらかといえば、当てはまらない / 4 当てはまらない

Q49：国語の授業で、説明的な文章を読み、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈していますか



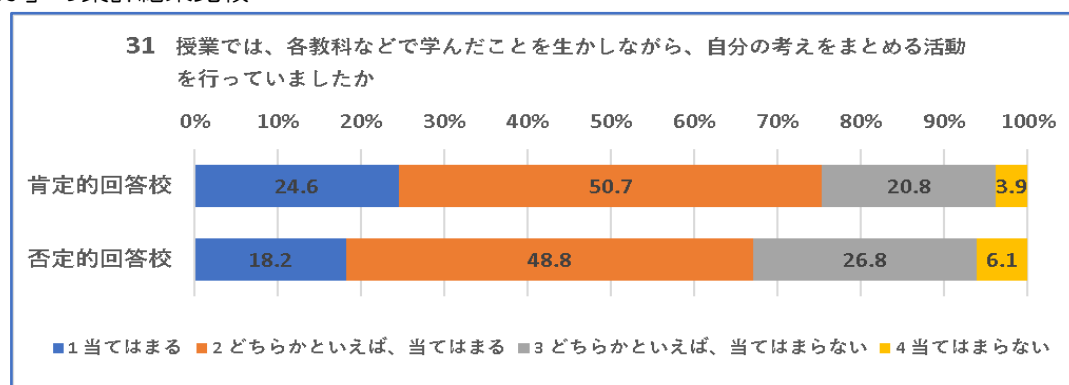
1 当てはまる / 2 どちらかといえば、当てはまる / 3 どちらかといえば、当てはまらない / 4 当てはまらない

学校質問と児童生徒質問のクロス分析

児童生徒質問項目と、学校質問項目について分析したところ、特に中学校において次のような特徴的な様子が見られた。

○生徒が言語活動をととして各教科・領域の学習に取り組んでいる学校では、「31 授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」に対して肯定的に回答している生徒が多い。

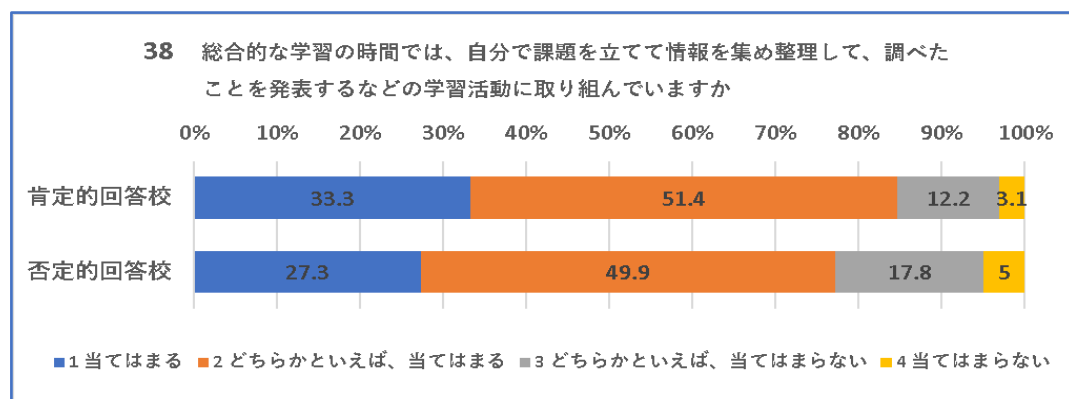
例)「学校質問15：言語活動について、国語科を要しつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んでいますか」に対して、肯定的に回答した学校と否定的に回答した学校の「31 授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」の集計結果比較



「29 授業では、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」でも同様の傾向が見られた。

○教科横断的な視点や、探究的な学びの視点を取り入れることが意識されている学校では、「38 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」に対して肯定的に回答している生徒が多い。

例)「学校質問35：各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか」に対して、肯定的に回答した学校と否定的に回答した学校の「38 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」の集計結果比較



「37 授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか」でも同様の傾向が見られた。

VII 提言

令和6年度全国学力・学習状況調査

調査結果を踏まえた学力向上7つの提言

提言1 単元などの内容や時間のまとまりを意識した指導の充実

1 単位時間の授業は大切です。しかし、そこでの学びが児童生徒の中でつながらなければ、学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚することができません。「質問項目 34：学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の項目は、学力との相関が見られました。児童生徒が学習した内容について自ら振り返り、次の学習に生かしていくためには、教員自身が1 単位時間の授業計画だけでなく、単元などの内容や時間のまとまりの中で、育成したい資質・能力を明確にした上で指導計画を立て、児童生徒の学びをつなげていくこと、変容を自覚させていくことが必要です。それはまた、教科の「見方・考え方」を働かせることにも結び付くはずです。これらの改善が、児童生徒に教科を学ぶ意義を実感させ、「学びに向かう力」を育むことにもつながります。

提言2 指導と評価の一体化の充実

「主体的に学習に取り組む態度」の評価について、どう評価したらいいのかという方法論が話の中心になっていないでしょうか。評価の前提となる、育成を目指す児童生徒像は明確でしょうか。学習評価は、教師が自らの指導のねらいに応じて授業での児童生徒の学びを振り返り、学習や指導の改善に生かしていくこと、そして、その指導のもとで児童生徒が学習したことの意義や価値を実感できるようにするために行うものです。育成を目指す児童生徒像をしっかりとイメージした上で、現時点での児童生徒を冷静に分析し、指導を通して児童生徒がどう伸びたのか、どう変容したのかを見取り、一人一人にその成果を返していくとともに、教員が自らの指導を改善していくという認識が重要です。

提言3 認知能力と非認知能力の一体的な育成

認知能力と非認知能力は相互に関連し、支え合って育っていくものであることから、一体的な育成を図っていくことが重要です。あらゆる非認知能力を網羅的に育成しようとするよりも、各校の教育目標と照らし合わせ、育成を目指す児童生徒像に則って「特にこういう力を伸ばそう」と決めることが必要です。そして、校内研修等を通じて全教職員で共通理解を行い、学校の教育活動全体を通して育成を目指していくことが大切です。

提言4 調査対象教科だけでなく、すべての教科及び領域での指導の充実

「質問項目（小）49：国語の授業で、物語を読むときに、登場人物の性格や特徴、物語全体を具体的にイメージし、どのような表現で描かれているのかに着目している」

「質問項目（中）49：国語の授業で、説明的な文章を読み、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈している」、「質問項目 55：算数【数学】の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える」と回答していた児童生徒は、教科に関わらず平均正答率が高い傾向がありました。文章を読む力や問題に粘り強く取り組むことが大切であることは従前から言われていることではありますが、改めてその重要性を認識し、すべての教科及び領域で「ことばの力」を育む言語活動や粘り強く取り組む態度の醸成を位置づけることが大切です。このとき、担任や各教科担当だけで考えるのではなく、学校全体で方針を持ち、全教職員で共通理解した上で指導することが必要です。

提言5 学んだことを生かし、自ら課題を設定し解決する課題解決型の学習の充実

「質問項目 30：授業では、課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいた」は各教科の平均正答率と相関がみられます。自ら課題を設定し、解決していく課題解決型の学習を通して各教科で学んだことを実際に使いこなし、そこで得た学ぶ力を再び教科の学びへと生かしていくという探究の機会を充実させることが大切です。

提言6 生徒指導の4つの視点を活かした学級経営

生徒指導の実践上の視点（自己決定の場の提供、自己存在感の感受、共感的な人間関係の育成、安全・安心な風土の醸成）を活かした学級経営が大切であることは言うまでもありません。教員の児童生徒への適切な言葉かけや働きかけによって、学級は落ち着きます。児童生徒一人一人が、学級が楽しい、安心できるという感覚を持つ中で、他者の意見を聞いて自らの考えを深めたり、相手に伝わるように工夫しながら発表をしたりといった学習活動を行っていくことが大切です。

提言7 実践的な校内研修、指導の振り返りと改善の充実

実践的な校内研修を行うこと、校内研修の質を向上させることを通して、学校としての「指導力」を組織的に向上させることが必要です。管理職のリーダーシップの下、学校として何を大切にしているのかを全教職員で共通理解し、児童生徒の現状を正確に把握し、どうすればねらいに近付けるのか仮説を立て、全教職員がそれぞれの立場から一人一人の児童生徒に適切な指導・支援を行い、指導の成果について検証し、指導改善を行うことが重要です。

学校の教育活動について、教員の感覚と客観的データの両輪から児童生徒の伸びと変容を把握し、指導を振り返り、改善していく学校文化を醸成していくことが必要です。「京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～」の結果データも最大限活用してください。